## 版画堂 112



## ご注文の方法

●電話・Fax・メール・葉書にてお願いいたします。

Tel. 03 (3219) 2027

Fax. 03 (3219) 2026

メール: info@hanga-do.com

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-12 雅樂川ビル 1F

- ●送料は実費を頂戴いたします。
- ●ご送金は下記口座にお振込みください。
  - ①三井住友銀行 神田支店(普通) 1064093 口座名 有限会社 版画堂
  - ②郵便局 00180-6-414812 版画堂

営業日 月~土(日・祭休業)10:00am ~ 6:30pm http://www.hanga-do.com/





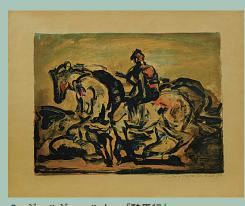


1 ジャン・フランソワ・ミレー「耕す人」

1855年 23.6×33.5 (プレス寸) エッチング 薄紙にセピア刷 第4ステート 紙面少ヤケとマットヤケ 作品上辺を台紙に貼付 元額汚れ (昭和10年頃の額装か)

※額裏板に日仏芸術社(黒田鵬心署名入)の封筒が貼付されている(大正15年2月3日の日付)









3 ジョルジュ・ルオー「騎馬行」500,0001910年 33×44 サイン リトグラフ ルオーが最初に制作したリトグラフ作品 第7ステート 限25部のEP版 500,000 少ヤケ 少シミ 裏面ヤケ 額角に少傷み





4 ジョルジュ・ルオー「占う人たち」 75,000 『ミゼレーレ 41』 1948年 50×43 限425 銅版 保存不良 マットヤケ 裏面ヤケ



5 ジョルジュ・ルオー 70,000 「ジャン・フランソワは決してハレルヤを歌わず」 『ミゼレーレ 25』 1948年 59×42 限425 銅版 少ヤケ



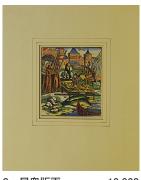
6 オディロン・ルドン 180,000 「神秘的な対話」 1891年 13.5×9.6(45×31.8紙寸) 限50 刷込サイン リトグラフ 紙面左部に縦折れ 全体に少ヤケ 少シミ 裏面右辺に紙テープ有



7 モーリス・ドニ 85,000 「花冠の母子像」 1929年頃 46×34 限108 サイン 石版 少ヤケ 裏面テープ跡と少ヤケ



8 チャールズ・エミール・ジャック 「かわいい羊飼い」 14.5×10 銅版 LIENARD刷 全体にヤケ 保存やや不良 13,000



9 **民衆版画** 10,000 「作品」 16.5×14.5 木版に着彩 裏面は活字ページ 裏打



10,000 「作品」

Les Maitres de l'Affiche 66 1895年~1900年頃 39.5×28(紙寸)リトグラフ マットヤケ



「L'ERMITAGE」 Les Maitres de l'Affiche 27 1895年~1900年頃 40×28.5 (紙寸) リトグラフ 少マットヤケ マージン上辺汚れと切れ 10,000



12 レッド・ルイス 「THE SUN」 Les Maitres de 'Affiche 56 1895年~1900年頃 40×28(紙寸) 台紙左角切れ 少ヤケ 8,000



13 ロートレック 「花月」 シャンソンのた めのオリジナルリトグラフ 1895年作(1978年刷) 42×32(紙寸) 限450 リトグラフ マットヤケ 函無 裏面板ヤケ 20,000



14 ロートレック 「別れ」 シャンソンのため のオリジナルリトグラフ 1895年作(1978年刷) 42×32(紙寸) 限450 リトグラフ マットヤケ 少汚れ 裏面板ヤケ 20,000



15 スタンラン 20,000 「負傷した戦士」 1916年 69×52.5 刷込サイン リトグラフ マージン左上角 切れ 全体にシワとヤケ



 16 J. Chimmel「風景」
 25,000

 油彩8号(35×45) サイン
 サイン

 キャンバスボード 画面少汚れ 額傷み



17ワルワーラ・ブブノワ「川を眺める」100,00021×29.5サインパステル裏面テープ剥し跡函無



18 ジャン・フランソワ・ミレー 70,000 「子供を抱いた母親 (農婦とアヒル)」 48.5×35 銅版 ブラックモン刻・サイン 羊皮紙刷 全体に波打ち マットヤケ 裏面汚れと紙剥し跡



**19 アレクサンダー・カルダー 150,000** 「エルサレム」 55×76 限100 サイン リトグラフ 紙面数ヶ所にシワ



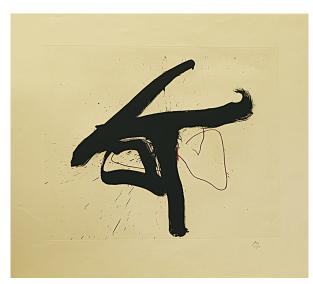
21 サム・フランシス200,000「作品」 45.5×35 PP サイン 銅版少シミ



**20** *ハンス・ジャン・アルプ*  **[Soleil Recerclē**] 1966年 25.5×22 限60 サイン リトグラフ 少ヤケ 少シミ **165,000** 



22サム・フランシス「作品」200,00028×35限定記載無 サイン 銅版 「IKURO」の為書有(鉛筆) ヤケ修復有



23 ロバート・マザウェル 「作品」 49×60 限50 サイン 銅版 マージン少シワ 200,000



**24 マックス・エルンスト 90,000** 「作品」 42×28 限LX サイン リトグラフ 全体に少ヤケ(少褪色?)



25 マックス・エルンスト 「作品」 24×14.5 リトグラフ サイン 限定無 8,000



26W.ラム30,000黒い船I1972年23×17.7限125サイン無銅版マットヤケ



27 ジョアン・ミロ 「作品」 36×27 リトグラフ 6,000



 
 29 ジョアン・ミロ
 40,000

 「フランシス・ダシィス『太陽讃歌』より」

 1975年 36×50.8 (紙寸) 限220

 サイン無 銅版 少ヤケ 額装マット少ヤケ



30 ジョアン・ミロ 「フランシス・ダシィス『太陽讃歌』より」 1975年 36×50.8(紙寸) 限220 サイン無 銅版 少ヤケ 額装マット少シミ 少ヤケ 裏面少ヤケ 25,000



28 ジム・バード 15,000 「リト作品」と「リトポスター」 1992年 各76×56(紙寸) 限75 サイン リトグラフ



33 マリオ・アバチ 「蝶」 1987年 6.5×7 限150 サイン 銅版 函無 10,000



34マリオ・アバチ25,000[貧しい食事]1982年28.5×37.5限85サイン銅版



31 ジャン・デュ・ビュッフェ 「1985年 リトグラフポスター」 74×40 マージン左下角切れ 10,000



32 作者不詳 [1981年 リトグラフポスター] ポリグラファ刊 (バルセロナ) 75×50 裏面左辺テープ剝跡 4,000



**35 アントニー・タピエス**[LA CLAU DEL FOC] より
34×49 HC サイン リトグラフ
紙面中央に板ヤケ
25,000



36 ジャン・イプステギュイ 「ミケランジェロに捧ぐ」 1975年 紙寸60×80 限200 サイン 銅版 少ヤケ 少シミ 13,000



37 エドガー・バーン・ジョーンズ 石版画集『フラワーブック』 1905年 限定300 判型33.6×27.5 (画寸16.6×16.6) 石版38点入 保存状態は概ね良好だが、全体に少ヤケと巻末ページ の右上余白に所有者によるペンのメモ書き有 背に僅か切れ

※バーン・ジョーンズが1882年頃から主に休暇を利用して書き溜めた38図を、バーン・ジョーンズの死後の1905年にロン ドンのファイン・アート・ソサエティーから出版された。



38 ウォーター・クレイン「石版挿画 8点組」 1890年頃 各18×14 刷込モノグラムサイン リトグラフ 函無



39 【Le Rire』 6冊 1933年 判型31.5×23.5 表紙剥がれ(1冊) その他シミ、ヤケ、汚れ、切れ、折れ 保存不良



**40 青山容子** 「ゆらぐ - 2」 1986年 59.5×59.5 サイン 木版 **5,000** 



41 青山容子 「Improvisation 89 - 12」 1989年 60×60 限5 サイン 木版 マージン角少折れ 7,000









42 浅井 忠『黙語日本畫集』

明治42年 芸艸堂 判型37.6×25.2 カラー木版8図入 表紙傷み 背表紙無 本文ヤケシミ



**43 麻田 浩**[Trois Elements]
限80 サイン 銅版
少ヤケ
裏面少板ヤケ **13,000** 



44 東谷貞美「作品」 3,000 17.8×23.3 限250 サイン 銅版 裏面僅かにシミ テープ剣し跡



45 天野邦弘8,000[Lost Part]1975年35×55限50 サイン 木版 少ヤケ



46 荒井陸男「風景」10,00025.5×35 サイン 水彩 ヤケ 裏面ヤケシミ 左右辺にテープ剝し跡<br/>裏面に女性のデッサン図有



47 有島生馬80,000「田中小穂子像」昭和19年春油彩4号(33×24)裏面にサイン 板



48 有元利夫 55,000 『NOTEBOOK 1983』より 1983年 5×5 限83 サイン 銅版



49畦地梅太郎35,000「ピッケルを持つ山男」1963年 22.8×15.5 サイン自摺木版 シミ 汚れ 裏面シミ左右辺にテープ剝し跡



50 畦地梅太郎「水 - 73」25,0001973年 20.1×20 AP サイン 木版マージンシミ 汚れ 裏面角ヤケ シミ



 51 
 睦地梅太郎
 28,000

 「鳥と道具」 1969年 33×21.2 AP サイン 印 木版 マットヤケ 裏面ヤケ 四角コーナー剝し跡





 53 
 畦地梅太郎「浅間山」
 30,000

 1957年
 18×24
 サイン
 木版

 マージンややマットヤケ



54畦地梅太郎30,000「花の季節」 1966年 31.7×24限定無 サイン 木版



55 畦地梅太郎35,000「白い手袋」 1960年 30.2×21 APサイン マージン下部に少折れ



5,000 「泉岳寺墓所」東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社 18×24.5 木版 台紙に貼付 僅かにシミ



57 飯塚羚児 「かっぱの踊り」(仮) 46×37 サイン 水彩 少シミ 7,000



**58 飯野農夫也「木版2点組」** 各15.1×15.2(紙寸) 共に少シミ



59 池田修三 「木版賀状 18葉」 昭和43年~64年 一部にヤケ・シミ 端に少切れ 20,000



 60 石川寅治「憩い」
 15,000

 1934年 19×14 木版 少シミ 少ヤケ 額装 作品上辺を台紙に貼付



61 石井白亭「菊」 絹本色紙(21.3×18) サイン 印 水彩 少ヤケ 少汚れ 10,000



A Solvey Constitution of the Constitution of t



62 石田光造「わらべ 7・10・11月」1973年 各32×40.5 HC サイン 石刻版画 彩色

10,000





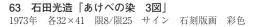
10,000



 64 泉 茂
 30,000

 「ポートレート」 1957年 47.5×38

 限30 サイン リトグラフ





**65 一原有徳「UC4」 4,000** 1992年 24×16.4 EP サイン 銅版



**66 一原有徳「作品」 5,000** 1977年 18.8×14.5 1/1 銅版 モノタイプ マージン僅かにシミ



67 **一原有徳** 6,000 「sow (c)」 1978年 22.6×17.6 サイン 銅版 モノタイプ 断ち有 下辺マージンシミ



68一原有徳5,000「作品」 1987年27.1×16.61/1サイン銅版モノタイプマージン少シワ折れ



69 一原有徳8,000「LYO (a) 」 1980/1983年24.5×17.5 限20 サイン 銅版マージン少シミ



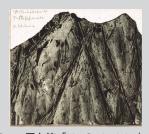
70 一原有徳5,000「作品」 1988年 15.5×10HC サイン 銅版マージン上辺僅かに汚れ



71 **一原有徳「版画5点組」 15,000** 1990 ~ 1992年 サイン 銅版「PH16」(5.5×6.8)、 「作品」(7.5×6.8)、「作品」(葉書8.8×7.2) モノタ イプ「SOW」(12.2×6.5)、「tel」(7×9.8)、2点マー ジン折れ



72 **一原有徳 4,000** 「作品」 1988年 16.5×19.5 HC サイン 銅版 色紙 (27.2×24.2) に刷



73 一原有徳「Mt. Otokodake」 4,000 1969年 24.2×27.2(色紙) サイン 銅版 Mr.Kikamadoの為書有 マージンシミ



**74** 一原有徳「Mt.Kirigishi」 3,000 1978年 19×28.4(紙寸) サイン 銅版 Pour K.Komodaの為書有



75 **一原有徳** 3,000 「Mt. Kitoushunupuri」 1996年 15.6×25 サイン 銅版 Pour Komodaの為書有 マージン少汚れ



**76 一原有徳「Mt.Oputateshike」** 15.5×11.9 サイン 銅版 マージン僅かにシミ **3,000** 



77 一原有徳 4,000 「作品」 2006年 31.5×23.2(紙寸) サイン 銅版



78 一原有徳 3,000 「氏」 1975年 19.5×12.5 限20 サイン 銅版 マージン特に左辺にシミ 裏面ヤケ



79 一原有徳 [GJ]5,0001989年18.6×15 EP サイン銅版上辺マージン僅かに汚れ



**80 一原有徳 6,000** 「**saimisaki**」 30×21.5 サイン 銅版 マージン僅かにシミ



81一原有徳「作品」5,0001988年9.5×19.71/1サイン銅版モノタイプマージン右上角弱い折れ



**82 一原有徳「HP22」 4,000** 1992年 12.5×17 EP サイン 銅版 マージン少シミ



83 **一原有徳** 「作品」 2001年 28.4×18.7 (紙寸) HC サイン 銅版 右辺紙 テープ剝し跡 シミ1ヶ所 3,000



84 一原有徳 「作品」 1974年 20×14.6 1/1 サイン Pour Komoda の為書有 モノタイプ マージン僅かシミ 5,000



85 一原有徳「作品」10,0001980年25×351/1サイン銅版モノタイプ



**86 一原有徳「TM (C)」 5,000** 1992年 19×21 EP サイン 銅版



87 一原有徳 「水筒の口」(仮) 2006年 31.4×23.5 (紙寸) サイン 水彩 少ヤケ 5,000



88 一原有徳 「作品」 2006年 31.5×23.2 (紙寸) サイン 水彩 5,000



89 伊藤研之「海岸風景」 1953年 油彩4号 (24×33) 板



90 伊東深水「時雨」 20,000 昭和2年(後刷) 33×21.5 木版 マージン左上と右上に少シミ



91 井堂雅夫 15,000 「新橋 Ⅱ」 1984年 50.5×35 限150 サイン 木版 少ヤケ



92 井堂雅夫 「**清秋**」 2008年 60×20 限150 サイン 木版 15,000



93 井堂雅夫 「風音」 2009年 60×20 限150 サイン 木版 15,000



94 伊藤勉黄「二つの眼」 35,000 21×26 AP5部 サイン 木版 マージン四辺折れ 額装マットヤケ シミ



95 伊藤勉黄 35,000 「暖かに」 23×19 AP3部 サイン 木版他 マージン四辺折れ 全体に少マットヤケ



96 糸園和三郎 13,000 「女性」 26×21 限100 サイン リトグラフ



97 猪熊弦一郎 25,000 「カーニュ (南仏)」 1939年 31.7×50 限125 サイン コロタイプに手彩色 額裏「パリ郊外 (カーニュ)」とあり 少シミ 額装用マット少ヤケと少シミ



98 猪熊弦一郎 25,000 「ルロット (ブールドル サンジョセック)」 1939年 31.7×50 限125 サイン コロタイプに手彩色 シミ 額装用マット少ヤケと少シミ



99 井野英二「鎌倉すごろく」20,00020×27 限50 サイン 木版



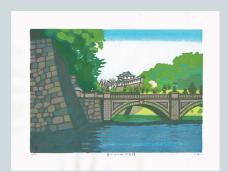
**100 井野英二「湘南江の島夕暮れ」20,000** 19.5×26.5 限80 サイン 木版



101 井野英二「シュロ晩景」20,00020×27 限50 サイン 木版



102 井野英二「銀座夜景」 20,000 20×27 限50 サイン 木版



103 井野英二 「春の江戸城伏見櫓」 20×27 限50 サイン 木版



104 井野英二20,000「ムサシノキスゲの森」20×27 限50 サイン 木版



**105** 井野英二「雪のポプラ並木」 **20,000** 20×27 限50 サイン 木版

## 「東京進化論」新会員募集

本当の空が無いと言われる故郷東京は、それ自身の意思と関わりなく日夜著しい変貌をし続けています。沢山の人々の期待と失望と錯覚に満ち溢れ、ますます巨大化しながら進化しているようです。1997年に始まった木版画・東京進化論も新旧対比の風景から、その時々に電波塔、雪景色などのテーマを考えながら作り続け、現在第74景まで制作しました。然しながらまだ作っていない東京の魅力的な風景が沢山あります。自分のライフワークとして続けるために、ご支援のほどどうぞ宜しくお願い致します。

- \*年3回ほど新作発行予定。
- \*自画自刻自摺・限定50部、作品サイズ27cm×19.5cm
- \*会員価格 16,000円 (多色摺2点1組)
- \*作者·井野英二

〒301-0855 茨城県龍ヶ崎市藤ヶ丘5-10-13 ☎0297-64-3863



106 今西中通「裸婦」 280,000 1930年代 35×25 サイン 紙に油彩 裏面少ヤケ テープ跡



108 上野山清貢「肉筆団扇」 10,000 26×28 (画寸) サイン 油彩 裏面に子規の句入 少傷み



107 今西中通「風倒木」 26×38 サイン ガッシュ



109 内田 巌「明石海岸」 300,000 1929年 油彩20号 (60×73) サイン キャンバス

第16回光風会賞受賞作品(『没後50年 内田巌展』カタログ掲載)



(ウッドベース) 2010年 11.7×6.7 限50 サイン 木版



110 宇田川民生 5,000 111 宇田川民生 5,000 112 宇田川民生 5,000 113 宇田川民生「おらが春」 音楽シリーズ 「赦」 音楽シリーズ 「愁」 (オカリナ) 音楽シリーズ 「月」 (篠笛) 2016年 11.7×6.7 限50 サイン 木版



2016年 11.7×6.7 限50 サイン 木版



25,000 2016年 27×37.7 限30 サイン 木版



114 海老原喜之助 「作品」 36.8×21 サイン 鉛筆デッサン 少汚れ ヤケ 左辺少切れ 裏面テープ跡 35,000



115 凌藤牧三 15 000

115遠藤教三15,000「まくり3図」 34×54 (2図)42×69 (1図) サイン 絹本全体にシミとヤケ 2図に傷有



116遠藤享5,000「作品」1987年45×45限100サインリトグラフ



117 遠藤享「作品」 5,0001987年45×45限100サインリトグラフマージン上辺に折れ



118 遠藤享「作品」 7,0001986年45×45限100サインリトグラフ



119 榎木順子 「版画賀状4葉」 昭和49年~61年 少ヤケ 少シミ 1枚に折れ 台紙剥し跡 3,000



 120 大澤鉦一郎「桔梗」
 250,000

 油彩6号(40×32) サイン 板 画面右辺に古い額の端先 跡と傷1ヶ所有



121 大沢昌助 「椅子に坐る裸婦」 油彩3号 (27×22) サイン キャンバス 55,000

122 大谷一良 「春の訪れ」 2004年 19.6×17 限15 サイン 木版 10,000





昭和42年~56年 少ヤケ 1枚シミ 3,000

迎春 1981

124 大野喜弘「木版賀状3葉」3,000 昭44年~57年 少ヤケ 少シミ 1枚シミ大と切れ 裏面台紙剥し跡 破れ



125 岡田露愁「作品」 10,000 44×75 限75 サイン 木版 マージン上辺と左辺に折れ 全体に少ヤケとシミ



126 岡村吉衛門『徳次郎正業』 昭和35年中秋 判型30.5×20.6 限100 サイン 型染版画

13,000



127 岡本一平 「楠 正成(市川左団次)」 34×24 木版 少ヤケ



128 岡本よし美「賀状7葉」3,000 昭和52年~60年 木版6葉 印刷1葉 少シミ 1葉宛名面に剥し跡



129 小川芋錢「唐からし」 20,000 金色紙 (21.4×18) サイン 水彩 絹本 左下角に折れ 少傷



130 奥山民枝「花喰う鳥」4,0001984年 7.4×11.8 限15 サイン 銅版マージン四角テープ剝し跡



131奥山民枝「十月の蜜」5,0001984年7.2×11.6限15サイン銅版四辺に僅かシミ



**132 奥山民枝「作品」5,000** 11.6×7.5 限15 サイン 銅版



133 **乙三洞「宝船」 3,000** 1930年 21.3×15.3 刷込サイン 印 木版 上辺と右辺に弱い折れ



134 鬼武素子3,000「木版賀状6葉」昭和52年~61年少シミ 少汚れ



**135 オノサト・トシノブ 25,000** 「シルク **27**」 1968年 限150 サインシルクスクリーン 少ヤケ 少シミマージン角に少折れ



136オノサト・トシノブ25,000「64 - G」1964年24.2×24限120サインリトグラフマットヤケ褪色



**137 オノサト・トシノブ 20,000** 「シルク **101**」 1977年 20×20 限150 サイン シルクスクリーン



138オノサト・トシノブ20,000「シルク 43」1971年 22.5×28 限150サイン シルクスクリーン 全体に少ヤケ裏面少ヤケ



139 **小野忠重** 「たか」 1960年 21.2×10 限20 裏面にサイン 木版 台紙に貼付 台紙シミ 25,000



 
 140 小野忠重「岩」
 25,000

 1972年 12.5×22.8 限30 裏面にサイン 木版 台紙に貼付 台紙シミ



141 小野忠重「天草の浜」28,0001968年 22.8×14.2 限50 裏面にサイン 木版お紙に貼付 台紙シミ



 
 142 小野竹喬
 40,000

 青竹」(仮) 金色紙(21.4×18.2)

 サイン 印 水彩 網本 縁に一部 網布剥がれ 上部に横一線と右下角 に折れ



143 **小野竹喬** 18,000 「五月雨を・・・」 昭和56年 五都美術社 28.5×44 限250 木版 画面マットヤケ



144 **小野竹喬「荒海や・・・」 25,000** 昭和56年 五都美術社 28.5×44 限250 木版 画面マットヤケ



145 **小野竹喬** 18,000 「**象潟や・・・**」 昭和56年 五都美術 28.5×44 限250 木版 画面マットヤケ



146 小野竹喬 25,000 「田一枚植えて・・・」 昭和56年 五都美術社 28.5×44 限250 木版 画面マットヤケ



147 **恩地孝四郎** 25,000 「東京駅」 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社 25×18.8 木版 台紙に貼付 少シミ 裏面少シミ



148 **恩地孝四郎「二重橋」** 10,000 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社 19×24.7 木版 台紙に貼付 少シミ 裏面シミ



| 149 | **恩地孝四郎** | 10,000 | 「上野動物園」 東京回顧圖會 | 昭和20年 | 富岳出版社 | 18×24.5 | 木版 | ヤケ | 台紙に貼付 | 裏面ヤケ



150 鶴陽 3,000 「朝鮮京城外清正公洗剱亭」 大正6年? 絹本色紙(21.3× 17.8) サイン 印 水彩 1ヶ所シミ 全体に少汚れ



151 鶴陽「作品」 4,000 サイン 印 水彩 絹本色紙 (21×18) 全体に少汚れ



152 笠松紫浪 20,000 「雨に暮るる塔(東京谷中)」 36.5×24 刷込サイン 印 木版 後刷 左上マージンに1ヶ所シミ



153 **員起** 3,000 「舞妓」(仮)サイン 印 水彩 絹本色紙(21×18) 全体にやや汚れ 僅かにシミ



154 K. 笠原 15,000 「あやめ(Etude de 22 Juin 1913)」 1913年

油彩4号 (33×24) サイン 板 函無 画面汚れ



155 **不詳 (金島)「ばらと蝶」** 13,000 金色紙 (30×27) 絹本 画面傷み 元タトウ汚れ



156 片谷美香 「Parameters in the Pseudospherical space "b"」 1967年 63×54 限30 木版 マージ ンマットヤケ 左辺上角折れ 4,000



**157 金守世士夫 3,000** 「湖山〈玄鶏〉」 178×154 AP サイン木版 右マージンに弱い折れ



158加藤松雄「沿線」8,0001981年59×85サインシルクスクリーンマージンにインク汚れ



159 加納光於 「オーロラへの応答」 『現代版画』より 1970年 37.5×25.5 限500 サイン 銅版 シルクスクリーン他併 用 少シミ 少ヤケ 13,000



160 加納光於「葡萄弾―遍在方位について」より3図 1973年 各46×30 (紙寸) サイン





161 **鹿子木孟郎「風景」** 油彩6号 (41×32) サイン キャンバス 画面中央に修復跡1 ヶ所 **250,000** 



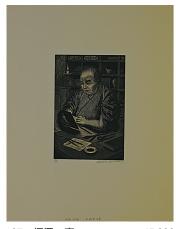
162 柄澤 齋『藤枝静男書誌』25,000 高柳克也編 1986年3月 湯川書房 判型19×13.5 限30 サイン 柄澤齋の銅版 (13×8) 1点入 銅版のマージン少シミ 函付



163 柄澤 齋 15,000 「冥い星 I・II」1979年 各34.8×25.5 (紙寸) 限200 サイン 木口木版(1図左辺に僅か にシミ)版画のみ、本は欠落



166 柄澤 齋65,000肖像 XXXVII エドワルド・ムンク」1986年 15×21.2 EP サイン 木口木版2版3色



167 柄澤 齋 45,000 「肖像XXIX 亜欧堂田善」 1985年 16.3×11 限70 サイン 木口木版



164柄澤癖40,000方丈記1「行く河の流れは絶えずして」1993-9438.5×57.5 (紙寸)限50サイン木口木版



165柄澤 瘤40,000方文記7 [山は崩れて河を囲み]1993-9438.5×57.5 (紙寸)限50サイン木口木版



168 柄澤 齋 23,000 「路上の人」 1986年 12.5×5.7 限70 木口木版



**169 加山又造「長城」** 1986年 18.5×19.5 PP サイン 単色銅版

170 加山又造「KAKI」 1990年 29.3×23.3 PP サイン 単色銅版 180,000





171 川上澄生7,000時計とランプ」1971年27.2×24.2 (紙寸)刷込サイン木版手彩色堀田版後刷少シミ



172川上澄生10,000「水浴の女」(仮)21.8×17.5 (紙寸)木版僅かにシミ



173 川上澄生 「九段大鳥居」 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社 18×24.2 木版 台紙 に貼付 ヤケ 僅かに シミ 裏面ヤケ テーブ剝し跡 8,000



174 川上澄生 「夜の銀座」 東京回顧図絵 昭和20年 富岳出版社 18.2×24 木版 台紙に貼付 マージン僅かにシミ 15,000

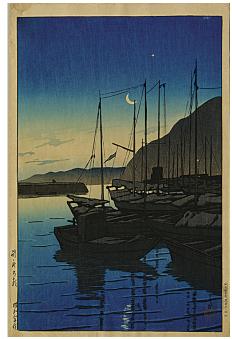


175川上澄生「わが願ひ」25,00054×34.6油性インク刷少ヤケ少シミ

宇都宮出身の彫刻家・佐伯留守夫が、1977年 に作成した宇都宮高校の碑文(木版版木から ブロンズにおこす)より拓刷したもの



176 川上涼花「風景」 130,000 1917年 29×44 左下に涼花の印 木炭 『川上涼花という画 家がいた』展(萬鉄五郎記念美術館)カタログ掲載 全体にヤケ 裏打ち マージン上辺にセロテーブ跡



177 川瀬巴水「別府の朝」 380,000 昭和3年 36.1×23.7 木版 渡辺版 少ヤケ 画面右上角に摺りムラ1ヶ所



179 川瀬巴水 「上高地大正池」 『新日本八景』 昭和2年  $36.1 \times 24$ 刷込サイン 印 木版 美術社版 後刷 少汚れ 少ヤケ 少シワ 20,000





183 川西 英 18,000 「メリケン波止場」 28×25 木版 加藤版



178 川瀬巴水「馬入川」





「日光華厳瀧」 『新日本八景』 昭和2年 36.1×24 刷込サイン 印 木版 美術社版 後刷 マージン左辺にテープ剝し跡 左下角に弱い折れ 僅かにマージンヤケ 裏面右辺にテープ剝し跡



181 川瀬巴水「三津浜の朝」 60,000 昭和28年 36.5×24 木版 渡辺版 (印無)



184 川西 英 10,000 「アメリカ博記念版画」 17×19 刷込サイン 木版 額装 マット汚れ 函無 作品を額装マット に貼付 裏面ヤケ



185 川西 英「作品」 30,000 33.5×24.5 木版 加藤版



186 観明 「マッカーサー元帥肖像」 1947年 39×25.7 木版 渡辺版 全体に少ヤケ 35,000



188 北 連蔵 「巴里郊外ムードンヨリエッフェル塔ヲ望ム」 昭和3年 油彩5号 (27×35) 裏面にサイン 板





187 岸田劉生「木版2点組」 45,000 各23.7×31.6(紙寸) 印 僅かにシミ 2点とも上辺に横折れ



191 城所 祥「静物明暗」 20,000 39×55 限35 サイン 木版



189 北野恒富 25,000 「廓の春秋 第三夏(堀江) 夕ぐれ」 1918年 39×26 サイン 印 木版 全体にシミ ヤケ



190 木下 晋「唄う」 90,000 1982年 41×32 サイン 鉛筆画



60,000 192 木内 克「裸婦」 1963年 27×37 サイン 紙にパステル 少ヤケ



193 北岡文雄 [Face of a woman] 1966年 20.5×16 限50 サイン 木版 マージン右辺汚れ 12,000



194 木下孝則「本とパイプ」45,000 1964年 油彩3号 (22×27) サイン キャンバス 元額少傷み

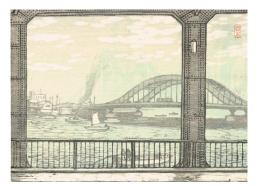


195 木原康行 10,000 「Coincedence」 1988年 29.5×38 限30 サイン 銅版

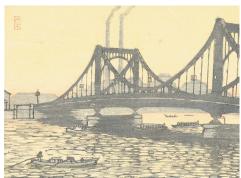


196 木原康行 7,000 Transition 10 1988年 30×19 限30 サイン 銅版

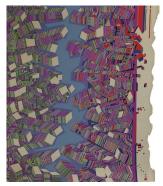




198 木村百木「永代橋」 10,000 『東京風景』より 18.5×25.5 印 木版 少ヤケ 少シミ



199 木村百木「清洲橋」 10,000 『東京風景』より 18.5×25.5 印 木版 少ヤケ 少シミ



200木材利三郎10,000「City - 93」1993年71×59APサインシルクスクリーン右辺に作者による破り取り有



201木村利三郎8,000「City - 370」 1980年 48×65限30サイン シルクスクリーンマージン少汚れ



202清塚紀子「突然の訪問」15,0001979年43.5×45限30 サイン銅版にコラージュマージン少ヤケ少汚れ



 203
 日下賢二
 4,000

 「見知らぬ風景 3」

 1974年
 51.5×54.5
 限40

 サイン
 木版 シミ



**204 日下賢二 5,000** 「青の彼方に」 1976年 55×55 限40 サイン 木版 少シミ



205日下賢二6,000[楽園]1975年55×55限40サイン木版



206日下賢二6,000「雲の彼方に」1976年54.5×55限40サイン木版マージン少シミ



207日下賢二6,000「陽はのぼり」1976年55×54.5限40サイン木版マージン少シミ



208日下賢二4,000「作品 69・3」1969年54×54.5限40サイン木版画面シミ



209日下賢二6,000「緑の斜線」1975年55×55限40サイン木版マージン少シミ



210国吉康雄85,000「すわる裸婦と子供」1916 ~ 17年頃10.1×7.7銅版第1ステート作品紙面4ケ所を台紙に貼付少ヤケ



 211 久保 守
 20,000

 「教会風景」 (仮) 油彩6号 (33×41)

 サイン無 キャンバス 画面少剥落

 額無



212 久保守25,000「セーヌ河」油彩8号 (38×46)サイン無キャンバス画室シール付額無



**213 久保 守「牛」 10,000** 27×38 サイン 水彩



**214 久保 守「作品」** 油彩6号(33×41) サイン無 キャンバス 額無



215 久保 守 「少年の顔」(仮) 30×25.5 サイン無 石版 マージンヤケ 13,000



216黒田茂樹10,000「Bicyele 79 - No.1」1979年44×59.5限50サイン銅版全体にシミ



 217
 黒崎
 彰

 「禁じられた恋人たち10-A」
 1976年
 55×79.5
 限50

 サイン
 木版

 マージン全体に少ヤケシミ・シワ
 30,000



218 熊谷守一 「水滴」 1995年 熊谷守一美術館監修 22.5×32 シルクスクリーン 28,000



219見目陽一23,000『EX-LIBRIS作品集』平成2年アルテ・ガーデン・プレス発行限88中型15.7×20.5木口木版27図入(各サイン)



**220 小泉 清「チューリップ」** 1945年 油彩5号 (35×27) 裏面にサイン 板



280,000



221 小出楢重15,000「人形」(仮)1930年27.2×17.5刷込サイン木版シミヤケ上下辺に切れ・折れ



222 小林清子5,000「子午線上の誘い」 1974年49×59.5 限25 サイン リトグラフ全体に少ヤケ マージンシミ少折れ



 223 小林清子
 3,000

 「はてしない現在」

 27×27 EA サイン

 リトグラフ マージン有



224 小林ドンゲ5,000かぐや姫」44×32.5EPA サイン 銅版全体にヤケ



 
 225 小松
 均「風景」

 44×63 印
 岩彩他
 作品額装裏板に貼付 全体にヤケ



226 小無田 泉 30,000 「オーブエル・パリー近郊」 1970年 油彩6号(33×41) サイン キャンバス



**227 小松義雄「風景」** 油彩50号 (73×116) サイン キャンバス 額無 画面上部と下部に剥落 汚れ 割れ



228 小松義雄「静かなる生態」150,0001956年 油彩60号 (130×97) サイン キャンバス世界・今日の美術展出品作 額無 画面少傷み 割れ



**229 小村雪岱「青柳」** 大正13年頃 42×28 木版 アダチ版





の素描による」入 (22.8×20 少ヤケ 刷りジワ)

THE REPT OF THE NEW YORK

232駒井哲郎35,000「自筆木版賀状」昭和25年元旦少ヤケ



元袋付(破れ有)

23.000 「作品」 芸大カレンダーより 7.5×7.5 サイン 銅版 マージントリミング



234駒井哲郎「人形の図」65,0001965年12.4×10限50サイン銅版色紙(27.2×24.2)に刷マージン僅かにシミ右辺下テープ剝し跡し跡裏面四角にテープ剝し跡





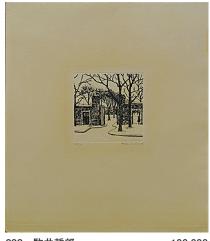
 236
 駒井哲郎「風船」
 100,000

 1956年
 7.5×7.5
 EA サイン 銅版

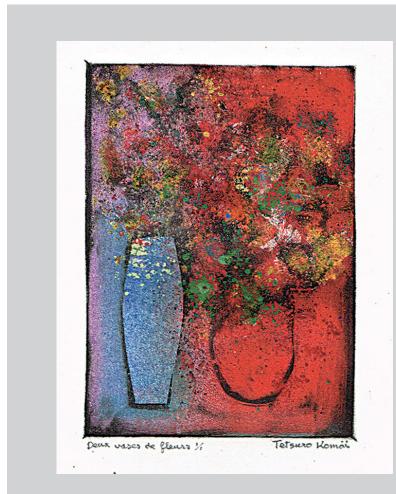
 雁皮刷



237駒井哲郎「樹」130,0001958年27×18EAサイン銅版少シミ裏面セロテープ跡



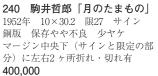
130,000238駒井哲郎100,000銅版「墓場の人口(モンパルナス)」 1960年7.5 × 7.5限30サイン銅版全体に少ヤケ

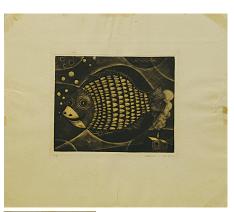




**239 駒井哲郎「二つの花瓶」** 1970年頃 11.5×8.5 限1 サイン モノタイプ 画面左下のマージンに絵具跡 **800,000** 







241駒井哲郎「夜の魚」1951年12×15限20サイン銅版全体に少ヤケマージン右辺中央に剝し傷と下辺に刷りジワ裏面セロテーブ跡450,000



242 小室大雲 「柿」 金色紙 (21× 18) サイン 印本と下部な 相本線と下部左 右角に折れ少 シミ 10,000



**243 小本 章 10,000** 「**P86-21 KAKO ROMA**」 1988年 55×68 限20 サイン リトグラフ



**244 今 純三「奥入瀬渓流」 5,000** 1938年 6.5×10(葉書版) 銅版 額付



245紺野 修「器物たち」 35,0001972年油彩6号 (32×41) サインキャンバス画面縮みあり



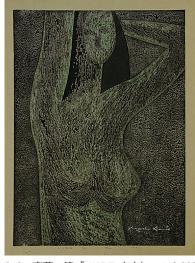
246近藤浩一郎6,000「田植え」 285×415木版 少ヤケ



247斉藤真一30,000「嘆き」(仮)27×19.5限250サイン銅版マージン下部余白に人物の額のペン画有



248 斉藤 清「HANIWA」15×28.5 サイン 木版 全体に少ヤケシミ 裏面テープ跡25,000



249 斉藤 清「NUDE (D)」110,0001966年 53×39 限100 サイン 木版マージン少シミ 裏面上辺テープ跡



 250 斉藤 清「浅草観音堂」
 13,000

 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社
 18.5×24.5 木版 台紙に貼付 ヤケ

 裏面ヤケ
 18.5×24.5 木版 台紙に貼付 ヤケ



**251 斉藤義重 「クレーン」 50,000** 1968年 71×50 限100 サイン シルクスクリーン画面左中央と右中央下 に折れ3ヶ所







253 齋藤無沙史4,000「三越 松屋 松坂屋」葉書2枚合わせ 9×15.21枚はヤケ大 シミ 裏面ヤケ シミ



 254 『ヌタツク 2号』
 20,000

 札幌第二中學山岳旅行部部報
 昭和5年

 吉村重文編集
 札幌第二中學校山岳旅行部ヌタック會発行

 ツク會発行
 判型24×16
 表紙/扉他・坂本直行(木版)

 行(木版)
 ヤケ
 シミ
 汚れ
 破れ
 千切





255 佐伯義郎5,000「西から東へ飛んでゆく」14×14.5限30 サイン 銅版 手彩入マットヤケ



**256 坂本久康「昇天」 6,000** 1974年 74×55 サイン 木版 マージン天地に切れ 全体に折れ



257 **笹島喜平「作品」** 5,000 35×45.5 印 板目木版 全体にヤケ マージン四辺に折れと小穴



258 佐藤 敬 「ショールの女」(仮) 37×27 サイン ペン画 ヤケ シミ 汚れ 下辺左右角コーナー貼 裏面ヤケ 四辺と上下角 にテーブ剝し跡 8,000



259佐藤健吾20,000「雲 #10」 油彩10号 (53×53)キャンバス サイン無 日動画廊シール付



260 佐藤忠良15,000帽子の子供達」 32×25限125 サイン 銅版 少ヤケ裏面少ヤケ テープ跡



**261 佐藤暢男「コップと卵の殻」7,000** 1975年 33×44.5 限50 サイン 銅版 マージン少折れ



262 佐藤暢男10,000「ガラスの器とさくらんぼ」 1989年19×35.5 限101 サイン 銅版マージン少折れ 函無



263 佐藤暢男6,000「花瓶とさくらんぽ」 1982年19.5×35.5 限100 サイン 銅版 シミ函無



**264 里見勝蔵「少女の顔」** 油彩1号 (22×16.5) サイン 板



265 佐野隆夫10,000「晩秋の安田講堂」1987年24×36サイン木版



266 清水正博「港」5,0009×13.9 木版 上辺に紙テープ跡



267 下沢木鉢郎「稚内風景」10,000 昭和7年 18.8×23.8 木版 東京三越の 販売シール貼付 少ヤケ 左マージンに 汚れと折れ 裏面テーブ剥し跡



268 下沢木鉢郎 25,00 「浅虫温の島雪景」 昭和6年 18×24 木版 東京三越の販売シール貼付 少シミ・ヤケ 左上角と右下角に折り目 裏面ヤケ・シミ・折れ



**269**鈴木雅子「Gray」6,0001991年50×59.5限20サイン木版マージン少折れ



270 菅井汲「鬼青」50,0001963年52×32限100サインリトグラフ少シミ



271 菅井 汲90,000「SAMURAI」1958年55×46限50 サイン リトグラフ 少ヤケマージン左辺に切れ画面右上に紙片跡 裏面少ヤケ



**272 菅井 汲 30,000** [風速Sメートル] 1989年 77×57 限100 サインリトグラフ

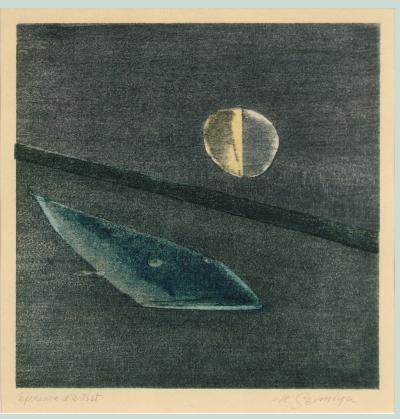


**273 菅井 汲「赤」** 1962年 39×30 限50 サイン 銅版



274 菅井 汲「L'ETE (夏)」120,0001962年 47.5×38.5 限50 サイン 銅版汚れ修復







**276 菅野圭介** 「八甲田山」 1954年 油彩10号(46×53) サイン キャンバス **330,000** 



 277
 関野準一郎「青森駅」

 1980年
 32×45.5
 サイン
 木版



278 **関野準一郎** 自刻版画『花物語』 昭和48年7月~昭和49年 6月 ギャラリー吾八 判型37.5×27 春夏秋冬 木版計12図入 限88 サイン 一部タトウに シミ 一部版画に僅か にシミ 120,000



























 279
 関野準一郎

 「ノートル・ダム・ド・パリ」

 1959年
 82×56
 限50
 サイン

 木版
 マージン少ヤケ
 少折れ



280関野準一郎「裸婦」 12,00024×27サイン 木版 共タトウ裏面四角セロテープ跡



 281 関野準一郎
 6,000

 「赤坂辨慶橋」 東京回顧圖會

 昭和20年 富岳出版社 18.2×23.8

 木版 シミ 台紙に貼付 裏面シミ



 282 高橋幸子「野原」

 11×15 限100 サイン 木版 裏打

283 高橋幸子「響」19×23.5 AP サイン 木版 裏打



284高橋幸子「こころをば」25×20APサイン木版裏打

25,000



**285 高橋幸子「ふたご座」** 11×14.5 AP サイン 木版 裏打

16,000



286 高橋幸子「うしかい座」11.7×15.5 AP サイン 木版 裏打

16,000



**287** 高橋幸子「ヘラクレス座」 11.7×15.3 AP サイン 木版 裏打

16,000



288 高橋幸子「大熊座」11×14 AP サイン 木版 裏打

16,000



**289 高橋幸子「おとめ座」** 12×15.4 AP サイン 木版 裏打



290 高橋幸子「花束」10,0009×12.7 AP サイン 木版 裏打



291 高橋幸子12,000「ピアノソナタ」11×17 限100サイン 木版 裏打



 292 高橋幸子
 15,000

 「GOOD BE WITH YOU」

 12×21 限100 サイン 木版 裏打



**293 高橋幸子 12,000** 「それがしも・・・」 15.7×10 AP サイン 木版 裏打



294 高橋幸子宮澤賢治 どんぐりと山猫」22.7×29.6 AP サイン 木版 裏打



295 高橋幸子25,000「宮澤賢治 ありときのこ」22.7×30 AP サイン 木版 裏打



 296
 高木保之助「華厳瀧」 3,000

 24×33
 木版 少ヤケ 少シミ

 作品を額装マットに貼付



297 高畠達四郎「桃」80,000油彩3号 (21×26)サイン キャンバス



298 高橋忠弥「風景」35,0001945年頃 油彩 19×20 サインキャンバスを板に貼付



299 高橋忠弥「デッサン5図組」 20,000 昭和17年頃 ペンデッサン3図 (13×18/16×18/13.5×17.5) 鉛筆デッサン2図「上海にて」36×25.5 (紙寸) / 「五福寺」29×38 (紙寸) 少シミ 角弱い折れヤケ 汚れ







302 滝沢慎吾「路傍の六地蔵」 20,000 油彩10号 (41×52) サイン キャンバス



303 武井武雄 5,000 「人形とランプ」 8.5×8.5 木版 マットに貼付 マットシミ



「行燈とエリーダ」 1976年 14×13 EP/限56 サイン 木版 全体に少シミ 少ヤケ 裏面テープ



305 竹田鎮三郎 15,000 「男と女」 73.5×61 限5 サイン 木版 少シワ









306 竹馬(ヨコタ・タケノ) 「肉筆スケッチ帳」 1918年 判型11×18.5 水彩14図 デッサン1図 クレヨン画1図 汚れ シミ ヤケ



307 竹久夢二 10,000 「木版絵葉書3葉組」 14.9×9 少汚れ 少水ジミ



308 竹久夢二「木版8点組」 13.5×9、14.5×9.3、13.5×9.1(全て紙寸)他 3点台紙に貼付 僅かにシミ 2点葉書



309 竹久夢二 4,000 「木版蔵書票」 6.9×7.5 (紙寸)



**310 竹村秋芳「朝鮮之風光6葉組」 4,000** 昭和6年頃 各14×9 木版 元タトウ 汚れ 折れ 表裏両面とも少シミ ヤケ



 311
 田坂
 乾「作品」
 25,000

 限35
 サイン
 石版
 画面下部に小穴1 ヶ所

 全体に少ヤケ
 裏面三越のシール付



**312 田中エイサク「作品」** 49.5×73(紙寸) サイン 水彩



15,000 **313 田中エイサク「作品」** 49.5×73 (紙寸) サイン 水彩



314 田中エイサク「作品」15,00049.5×73 (紙寸) サイン 水彩





315 田中 岑 20,000 「壁画のためのエスキース」 油彩8号 (24×45.5) 裏にサイン キャンバス



**316 田中正秋「金瀧の舞」 3,000** つくばエキスプレス浅草駅モニュメントより AP サイン シルクスクリーン



317谷口茂人6,000「Portrait - N」1979年58×70.5限35サインリトグラフ少シミ



**318 田村泰次郎「城ヶ島春雨」 40,000** 油彩8号(38×45) 裏面にサイン キャンバス 画面少汚れ



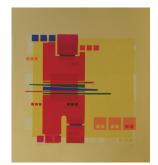
319 鳥海青児「埴輪」 65,000 28×21 サイン 紙に鉛筆とパステル 紙面上部右に弱い折れ



320 **鶴田吾郎 15,000** 「作品」1915年 29.4×21.4 刷込サイン 木版 マージン少ヤケ 左辺切れと穴1 ヶ所 裏面ヤケ



**321 寺田政明「つばき」 38,000** 油彩SM (23×16) サイン キャンバス



 322
 富田文雄
 5,000

 「砂岳 81-2」 55×55.5
 限22

 サイン シルクスクリーン
 シャケケ マージン少折れ





323 東郷青児 35,000 「つばき」「月夜」「花」「春」 (「新妝會・新感覚図案」第一巻) 戦前 八寶堂刊 各40×31 (紙寸) 木版 全体に少ヤケ 「ツバキ」の裏面ヤケほ か3点少ヤケ



324 鳥居忠賢 6,000 「役者絵」 36.5×24.5 刷込サイン 印 肉筆絹本 画面少シミ 小穴1ヶ所 マージンシミ 左上角テープ跡



**325 中澤弘光「牡丹の花」 130,000** 油彩10号(53×41) サイン キャンバス 少割れ 少汚れ



326中林忠良「囚われる日々 I 」40,0001974年45×56限40サイン銅版第1回セゴビア国際版画ビエンナーレ出品ほか



**327 中林忠良「囚われる風景VII」** 40,000 1973年 45.3×56.5 限40 サイン 銅版



**328 中林忠良「囚われる風景IX」40,000** 1973年 45.3×56.5 限40 サイン 銅版



**329 中林忠良 30,000** 「**転位 '85−地**II」 1985年 56×48 限50 サイン 銅版



330中林忠良30,000「転位'89-地ーIV」1989年56×49限50サイン銅版



331 中林忠良「Position '77」35,0001977年 44.8×56.5 限40 サイン 銅版



33.2 中林忠良 35,000 「Position '80 腐蝕 II 」 1980年 44.8×65.4 限50 サイン 銅版



333 中本達也25,000「作品」 1967年 50×35 EAサイン リトグラフ 少ヤケシミ



334中村不折10,000「風景」金色紙 (21.5×18)サイン印 絹本 墨彩



**335 中山 巍「作品」 20,000** 昭和26年 油彩6号 (33×41) サイン キャンバス 額無



336 難波田龍起 45,000 リトグラフ集『生成の詩 4』 1992年 エディション・ミツムラ刊 各58×48 限120 サイン リトグラフ2点入



337 浪花贄六庵「木版絵葉書12葉組」 4,000 昭和5  $\sim$  7年頃  $14 \times 9$  刷込サイン 印 木版 少汚れ 2葉シミ 家並の作品は2葉有



**340 野田裕示「Work 549」 150,000** 1989年 油彩12号(63×50) 裏面にサイン ユマニテシール付



342野見山暁治「作品」10,00030×62.5限250サインリトグラフ中折れ画集カバー画



338野田哲也40,000「日記 1972年10月25日」 1972年43.5×60 限30 サイン リトグラフとシルク併用 マージン左辺ヤケ全体に少シミ



**339 成田光二 7,000** 「**Field**」 1983年 753×56 限20 サイン 木版



341野見山暁治「黄色い風景」85,0001960年31×41サイン水彩裏面少ヤケ



343野見山暁治「ボルドー B」38×56サイン 水彩 全体にシミ裏面ヤケとシミ



344 萩原英雄 25,000 「眠れる美女」 60×42 限50 木版



25,000345萩原英雄30,00042「山の音」 60×42限50木版



346 **萩原英雄「黒雲沸く」 40,000** 『拾遺富士』 34×46.5 限100 サイン 木版



347 萩原英雄 30,000 「サーカスの馬と天使」 1971年 36×26 サイン ガッシュ 額装用マットヤケ



348 長谷川 哲「作品」 1984年 82×56.5 限10 サイン シルクスクリーン マージン右下角に 1ヶ所僅か赤インク跡 13,000



349 長谷川春子 40,000 「春の夢の海」 昭和29年初冬 油彩6号 (41×32) キャンバス 全体に少汚れ 画面左右上辺に傷







 350 長谷川利行「花」
 1,000,000

 1933年 油彩4号(33.0×23.8) サイン 板 東京美術倶 楽部鑑定証付 裏面に<ビエロ 1932年 木原芳樹>の サイン入 ※『東京の落書き1930's - 長谷川利行と小熊秀雄の時代』

1988 (板橋区立美術館) 出品-図録P60掲載No.22

利行は「花」を画友・木原芳樹の作品「ピエロ」の上に重ねて描いている。この木原宅で、天城俊彦は利行と初めて会う。「花」制作の背景と、宿命的な出会いの時を証言する、天城俊彦・矢野文夫・山岡荘八の回想が残されている。——図録と資料を付す。



351長谷川潔「秋草」230,0001951年28×22.3EAサイン銅版雁皮刷少ヤケヤケ修復



352 長谷川潔「ソリエスの村」200,0001935年21.4×27.9限35サイン銅版画面右上の部分に紙の繊維跡石上に刷りジワ2ヶ所全体に少ヤケ僅かシミ



353 長谷川 潔「楡の老樹」 85,000 『長谷川 潔の肖像』より 1963年 21×17 限220 版上サイン 銅版



**354 長谷川 潔 65,000** 「**聖体を受けた女性**」 19×14 サイン 鉛筆デッサン



355 長谷川 潔 50,000 「少女の顔」 17×14 スタンプサイン ベンデッサン 少シミ

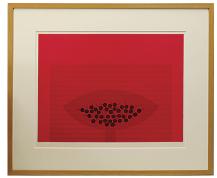




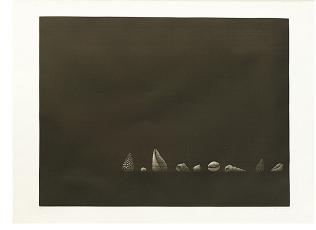
357 浜口陽三 135,000 「32のさくらんぼ」 1979年 19×19.5 サイン 銅版 マージン少ヤケ 画面さくらんぼの赤色に褪色有 裏面セロテープ7ケ所跡



358 浜口陽三 「26のさくらんぼ」 1971年 60.5×46.5 EA サイン リトグラフ 第4回クラコフ国際版画 ビエンナーレ出品作 100,000



**359 浜口陽三「赤い鉢」 120,000** 1971年 46×61 限XV サイン リトグラフ



**360 浜口陽三「9つの貝殻」** 1980年 47.3×62.5 限75 サイン 銅版 画面少波打ち 3ヶ所アタリ マージン少マットヤケ **230,000** 



**361 浜口陽三「くるみ」 45,000** 1971年 60.5×46.5 EA サイン リトグラフ 裏面ヤケ



362浜口陽三45,000「赤いパイプ」1971年60.5×46.5EA サインリトグラフ少ヤケ裏面ヤケ



363 浜口陽三 45,000 「テーブル掛けとさくらんぼ」 1971年 60.5×46.5 限XV サイン リトグラフ 少ヤケ 裏面ヤケ



**364 原 精一** 「スペインの扇子」 油彩5号(36×24.2) サイン キャンバス 額無



365 原 勝郎「風景」 油彩8号 (37×45) サイン 板



 366
 濱島静波
 3,000

 「木版絵葉書4葉組」
 14.2×9.2
 印

 全体に少汚れ
 元タトウ傷み汚れ



**367 平塚運一「百済旧都」** 34.5×48.5 印 木版 元タトウ付



368 **平塚運一「赤坂離宮」 6,000** 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社 18.5×24 木版 台紙に貼付 ヤケと汚れ 裏面ヤケ・テープのり剥跡



369 平塚運一 12,000 「大正時代の三菱銀行」 1955年 24.1×15.8 サイン 木版 マージン四方折れ マージンヤケ



370 美稲 「清水寺夕景」(仮) 39.2×27 木版 佐藤章太郎版 マージン上部少ヤケ 少シミ 25,000



371 深沢索一「冬田」 65,000 昭和17年 30.5×42 印 木版 全体に少ヤケ・シミ 裏面三越のシール貼付



372 深沢幸雄 20,000 「歩く 歩く」 1986年 74.3×49.5 限100 サイン 銅版 マージン左辺の上下角に折れ



373 深沢幸雄 30,000 「**女流銅版画家**」 1987年 69×36 限50 サイン 銅版 マージン上辺にテープ剝し跡 裏面テープ跡



374 深沢幸雄 28,000 「凝視 (青)」 1973年 限30 「哄笑」 1986年 24.5×17.8 サイン 銅版 マージン少ヤケ 右辺弱い折れ



375 深沢幸雄 10,000 AP サイン 銅版



376 福沢一郎「作品」5,000 37.6×26 限50 サイン 石版 上辺横に折れ 僅かシミ 裏面上下辺テープ剝し跡

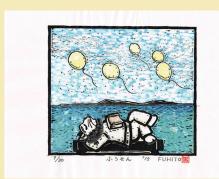


377 藤倉治平 「カフェにて」 1970年 油彩3号 (27×22) サイン キャンバス



378 藤島武二「木版挿絵3点組」 (「花菖蒲」「菊・萩・撫子」「さくらと梅」) 川上瀧弥·森廣『はな』より 1901年 22.8×15 (紙寸) 刷込サイン 少ヤケ 少シミ 3点共右辺に綴じ穴有





379 藤宮 史「ふうせん」 2013年 14×16.1 限30 サイン 印 木版多色刷+手彩色



380 藤宮 史 

 「夜をゆく (大)」 2003年 21×16
 2003年 20×15 限30 サイン 印

 限30 サイン 印 木版 手彩入
 木版 手彩色 右辺1ヶ所摺りジワ



15,000 381 藤宮 史「崖をゆく」 15,000



382 藤宮 史「チェロ」 15,000 2014年6月 19.4×16.3 限50 サイン 木版 手彩色



383 藤宮 史 7,500 384 藤宮 史「春のしらべ」 12,000 「ハーモニカ」 不明 11×7.5 2002年 12.5×14.3 限50 サイン 印 木版 HC サイン 印 木版

が 春のしらべ "02





385 藤宮 史 7,500 「ねこと時計」 10.5×7.5 限50 サイン 印 木版



386 藤宮 史 7,500 「明日をてらす」 2002年 11.2×8.5 限50 木版



387 藤宮 史 7,500 「こころの杖」 11×7.6 AP サイン

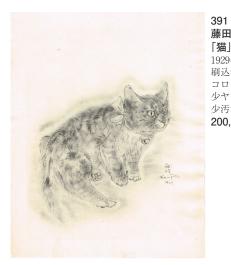


388 藤宮 史「猫の街」 15,000 2001年 20×13.5 限20 サイン 印 木版 手彩入



389 藤田嗣治「猫」230,0001929年18.8×24.5刷込サイン コロタイプ少ヤケ少汚れ





藤田嗣治 「猫」 1929年 24×18 刷込サイン コロタイプ 少ヤケ 少汚れ 200,000



392 古澤岩美「糸姫」 250,000 1953年 油彩15号 (65×53) サイン キャンパス 第13回美術文化協会展出品シール付



393 星 襄一 「薮」 1974年 17×29 作家保存版 サイン 木版 少ヤケ 50,000



394 星 裏一「青い薮」35,0001974年 16×22.5 サイン 木版



395 M. 松木 「静物」 油彩0号 (12×18) M. Matsukiのサイン 板 画面右辺中央に1ケ所 傷み 画面と額汚れ 25,000



**396 堀 浩哉「作品」 25,000** 1991年 63×93 限80 サイン 木版



397 前川千帆 3,000 「豆袋を縫う女」 1931年 20.5×12.7 刷込サイン リノカット 『みずゑ』 (昭和6 年4月号) 挿絵より 全体にシミ ヤケ



398 前川千帆「工場地帯本所」8,000 『東京回顧圖會』より 昭和20年 富岳出 版社 18.2×24 木版 台紙に貼付 僅かにシミ



399 前川千帆「新宿夜景」 10,000 『東京回顧圖會』より 昭和20年 富岳出版社 184×24 木版 台紙に貼付 少シミ 裏面少シミ



 400
 前田政雄「国宝赤門」
 7,000

 『東京回顧圖會』より 昭和20年 富岳出版社 18.5×24.2 木版 台紙に貼付催かにシミ 裏面テープ剝し跡



401前田政雄「漁村」10,0001939年60×45印木版マージン天地にテープ跡少シミ



 402 前田政雄「戸隠山雪景」
 25,000

 1945年 59×87 サイン無 木版
 市面下部にシミ 全体に少シワ



403 松田義之「風景」15,00035×40 サイン銅版 少ヤケマージン少折れ



404牧野宗則「波上の月」50,0001982年35×50限100サイン木版全体に少ヤケ



405牧野宗則「紅旭」 40,0001982年49.3×35.7 AP サイン木版少マットヤケ 少シミ



406 松田義之「風景」 8,000 昭和48年 26×19.5 銅版 少ヤケ マージン少汚れ 裏面少ヤケ 汚れ ドローイング 為書有



407真野紀太郎「釣人」15,0001952年32×44サイン 水彩 少ヤケ少シミ



**408 間部時雄「風景」25,000** 油彩3号(27×21.7) サイン 油彩 板 額無



409 丸木位里「ベニス」70,0001975年 44×51 サイン 水彩 画面少シワ



410 三上知治「護羊犬」15,000昭和22年 23.5×33.7 サイン 印 木版



411 **三岸好太郎画集** 1902-1934『K Migishi』 昭和25年 美術出版社 判型29.5×21.5 ヤケ シミ 汚れ 裏表紙少破れ 15,000



 412 三木辰夫「風景」
 65,000

 45×60 サイン 銅版 セピア刷 全体にヤケ 少シミ 裏面ヤケ テープ跡



413三井淳生15,000志摩正 (中村歌右衛門)1961年38.5×26.5印木版 右マージンピン穴2ヶ所



**414 水島哲雄「少女」 35,000** 油彩0号(18×14) サイン 板





415 水船六洲 「木版小集十二ヶ月」 昭和19年 判型43×31.5 綺羅工房家蔵本15部 12 枚捕 全体にヤケ元帙汚れ・傷み 保存やや不良 30,000



 416 耳野卯三郎「静物」

 油彩15号 (50×65) サイン キャンバス

 画面割れ修復有



**417 耳野卯三郎「春の海」 40,000** 油彩10号(46×53) サイン キャンパス 画面左上修復 全体に少シミ



418 南 桂子 90,000 「シャトーと赤い実」 1979年 32×28.5 限100 サイン 銅版 マージン少ヤケ 裏面セロテープ跡



419 村井正誠25,000「四人」1986年15×11サイン水彩



420 村山 密65,000「ノートルダム (パリ)」油彩3号 (27×21) サイン キャンバス画面傷みと汚れ 額汚れ



**421 棟方志功「作品」 40,000** 34×22.7 サイン無 木版



**422 棟方志功「作品」** 40×51 サイン リトグラフ アーサー・フローリー刷 マージン上部少ヤケ





424 杢田たけを13,000「少女礼讃」 47×34 サイン水彩



426 「馬車 35×4 水彩 12,0



**427 森岡完介「88 - 6P」 6,000** 1988年 50×50 限30 サイン シルクスクリーン



428 両角 修「No.100」48.5×61.5 限70 サイン 木版全体にシミ

165,000



**429 両角 修「No.69」 6,000** 51×53 限.60 サイン 木版 全体にシミ



**430 柳 敬助「風景」** サイン キャンバスボード 油彩4号 柳文治郎(息子)シール付



431 山口 薫「朝・昼・晩」65,0001954年 37×54 限100 サイン リトグラフ 全体に少ヤケ裏面ヤケ



**432 矢橋六郎「S. GIORGIO (VENEZIA)**」 1988年 油彩40号(80×100) サイン キャンバス



 433 山口 源「明治神宮」 7,000

 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社

 18.3×24.5 木版 台紙に貼付

 少ヤケ マージンにシミ多 裏面少ヤケ

 少シミ テーブ跡



434 山口 源「芝増上寺」 7,000 東京回顧圖會 昭和20年 富岳出版社 18×237 木版 台紙に貼付 マージン少シミ インクジミ 裏面少ヤケ 少シミ テープ剝し跡



 435
 山口
 源「枯れ葉と実」(仮)

 25.5×34.5
 木版
 少ヤケ
 僅かにシミ

 裏面ヤケ
 シミ
 紙テープ跡
 シール



436 山口 源「作品」35,00027.5×45.5 印 木版 中折れ 少ヤケ 少シミ



437山口進「沼の朝」5,00013×15.9木版台紙に貼付台紙4ヶ所テープ剝し跡裏面ヤケ4ヶ所テープ剝し跡



 438
 山口八九子
 10,000

 「作品」
 金色紙 (21.4×18)

 サイン
 印 水彩 絹本

 少傷み



 439 山口逢春「奈良」
 5,000

 新大和絵木版画刊行会
 23.5×32.5
 木版

 少ヤケ 作品上辺を額装用マットに貼付



440 山下清澄18,000「立像〈見知らぬ女〉XIV」1976年27×20.2 限30 サイン 銅版マージンシミ有 裏面少ヤケ テープ跡



441 山下清澄「ゾーディアックより3図」70,0001989年 〈天蝎宮〉16×19、〈宝瓶宮〉25×15、〈処女宮〉17×15銅版裏面に共シール ゾーディアック各3図をトリミングして作家により額装仕立てにしたもの 額寸48.5×102



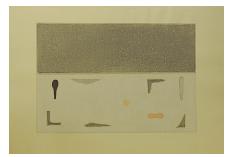
**442 山下新太郎 5,000** 「作品」 18.6×12.3 刷込サイン 木版 右下角切れ 小さなシミ2ヶ所



443 山高 登 「明石町河岸」5,00013.5×18 限200 サイン 木版 極少シミ



444山中古洞「作品」3,000昭和12年24.2×36刷込サイン 印 木版ヤケ上辺左斜めにシミ上右角折れと切れ右辺切れ3ヶ所裏面シミ



445山中現「二つの黄色」45,0001994年49×71限20サイン木版マージン右辺下に少汚れ裏面テープ剥し跡



446 山中 現「夜の灯」30,0001996年 45×48 限20 サイン 木版マージン左上角に汚れ1ヶ所

山本鼎生誕100年展 出品証 1982年7月24日-,9月12日 長野県上田市山本鼎記念館



**447 山本 進 20,000** 「ブリューゲルのために」 1987年 30×17 AP サイン 銅版



跡 裏面左辺下に切れ1ヶ所 額装マットヤケ

 448 山本 鼎「樹」
 150,000

 1937年頃 24×17 サイン 水彩 「山本 鼎生誕100年展」

 (山本 鼎記念館 1982年) 出品シール付 少ヤケ セロテープ



449 山本森之助「花」150,000油彩8号(45×32) 裏面にサイン 少汚れ



450 山本容子「公園へ」95,0001978年 45×59 限30 サイン 銅版 マージン下辺と左辺にヤケ 画面少波打ち



451 山村耕花(豊成) 「十五世市村羽左衛門の 植木屋吉五郎」 『梨園の華』より 1921年 40.3×28 木版 85,000



452 夢香 (藤澤龍雄) 「**役者絵**」 大正8年 紅芳社発行 32.3×22 木版 厚紙に上辺で貼付 汚れ ヤケ シミ 折り目 縁に切れ 7,000



453 吉田 博 20,000 「京都の夜」 昭和8年 37×24 刷込サイン 木版 後刷 マージン下辺1ヶ所シミ 左辺2ヶ所ピン穴 マージン僅かにシミ



454 吉原治郎「作品」 165,000 25.5×18 限150 サイン無 銅版 少ヤケ



455 横尾忠則 25,000 「少年マガジンポスター」 73×51 サイン無 シルクスクリーン



456 吉田政次 25,000 「余韻 No.2」 1967年 60.5×45.5 限30 サイン 木版



457 吉原正道 20,000 「執行正俊の舞踊劇 コッペリア・ コッペリハヌスの踊」か? 昭和7年頃 32×25(紙寸) 印 木版 左上角折れ少汚れ









458 吉原正道「木版12点と水彩1点」 12×17、16×12.3、10×7.8 8.4×8.7、17.3×19他 2点に刷込サイン 水彩は裏面にサイン





459 米倉斉加年 「作品」 1983年 63×32 限100 サイン 木版 全体に少ヤケ 画面下部に少シワ 25,000



460若月公平 [91 - 1 - R]10,0001991年55×75限50サイン銅版マージン上辺テープ剣し跡



461 脇田和25,000鳥飼い61×44 HCリトグラフマージン少折れ



462 脇田 和10,000「金時」 1986年 33.5×24限100 サイン リトグラフ少ヤケ 裏面少ヤケ



 463
 和田三造「続昭和職業絵尽」
 100,000

 昭和31年
 京都版画院
 木版24枚
 各28.5×32.5
 サイン
 元帙

 全体にマージン左上角に汚れ



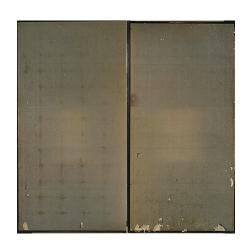
**464 渡辺貞一** 「雪国」 油彩8号(45×36) サイン キャンバス **110,000** 



 465
 渡辺霞江「福岡西公園の夕照」
 50,000

 昭和11年
 27×41
 サイン
 木版
 渡辺版
 全体にヤケ





渡辺幾春 (明治28年〜昭和50年) 名古屋市に生まれる。女性画家。 大正7年第12回文展初入選。 大正11年〜 14年京都市立絵画専門 学校に学び、山元春挙に師事。 大正13年朝見香城ら名古屋在住の 日本画家らと中京美術院創立。 文展、帝展、新文展で発表する。

(『おんなえ 近代美人版画全集』 阿部出版より)



 466 渡辺幾春「美人画」
 350,000

 二曲一双屏風 各169×175 サイン 画面少汚れ 少傷み 裏紙破れ有



467 『大正震火災木版畫集』全三十六景 150,000 1924年 判型27×36.2 21×29 (画寸) 木版36図 西澤笛畝/川崎小虎/磯田長秋/織田觀潮/田村彩天/ 桐谷洗麟 タトウ剥がれ 破れ (保存不良) 台紙に貼付 画少シミ 経年ヤケ 台紙シミ たわみ





468 小品集『版』 昭和7年頃 丹緑會編 判型24.5×19.5 (作品は9.4×14.5、6.3×12.6、 20.7×14.5他) 井上豊久/ 和泉 凡/秦 徳三/徳力富吉郎/ 長野正男/北村謹次郎/水内平 一郎/新開興作/森澤謙三とそ の他不明の版画2点 計木版11点 台紙に貼付 全体に汚れ 特に表紙は汚れ 虫穴や破れ 35,000

## 469 『東京美術学校における版画の同人たちによる版画雑誌及び一枚摺版画一括』

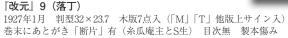
100,000

1927年~1930年頃 版画雑誌4冊(不揃・落丁・表紙傷み)と不詳木版画18点( $14\times9$ 、 $18.5\times12.5$ 、 $25\times18$ 、 $24\times31$ ほか)※下記各版画雑誌に掲載の作品は、必ずしも掲載の雑誌各号と一致しない場合がある











製本傷み 裏表紙汚れ



第1回椎の木版画展などに出品した作品や上記版画雑誌から離れた作品も含まれていると思われるが、詳細は不明。 1927年~1930年頃 東京美術学校校友会誌『校友会月報』第26巻第8号(昭和3年3月)に掲載作品3図を含む18図



#### 470 『彫りと摺り 8』

35,000

昭和8年6月 編集·武藤完一 発行·版畫研究會 表紙·中川雄太郎 判型31×22.5 佐藤米次郎/武藤完一/柴山正範他木版入 ヤケ 汚れ シミ 端千切 版画は一部にシミ ヤケ大



10,000 判型27.5×19 木版19図入 (川上澄生作品のみ欠) ヤケ 汚れ 一部にシミ 表紙破れ・千切 水ジミ



472 『鈍刀 No.15』 5,000 1953年9月 判型18×12.7 木版24図入 (川上澄生作品のみ欠) 全体にヤケ 変色 汚れ 端擦り切れ 千切・破れ





474 『北海道繒本』更科源蔵・文/川上澄生・画刻 さろるん書房 判型21.1×15 昭和30年 全体経年ヤケ 10,000



475 『版芸 No.34』 5,000 昭和41年6月 版芸会発行 判型27.3×19.6 限21 一部にサイン 木版11図入 (川上澄生作品のみ欠) ややヤケ 一部に少シミ 角折れ 表紙少シミ 背少破れ

千切・破れ

#### 476 『水韻譜』

30,000

書窓版画帖十連聚其七 昭和17年12月 アオイ書房 逸見 享・作 志茂太郎・刊 判型26.5×21 限250 木版10図入 少ヤケ 少シミ



## 477 『伊豆一周畫詞』

30,000

書窓版画帖十連聚其九 昭和18年3月 アオイ書房 平塚運一・作 志茂太郎・刊 判型26.5×21 限250 木版10図入 少ヤケ 少シミ





478 『都會生活』

35,000

書窓版画帖十連聚其一 昭和16年9月 アオイ書房 織田一磨・作 志茂太郎・刊 判型26.5×21 限250 石版10図入 少ヤケ 少シミ



479 『新野外小品』

30,000

書窓版画帖十連聚其四 昭和17年7月 アオイ書房 前川千帆・作 志茂太郎・刊 判型26.5×21 木版10図入 少ヤケ 少シミ











## 480 『文明開化往來』

書窓版画帖十連聚其三 昭和16年12月 アオイ書房 川上澄生・作 志茂太郎・刊 判型26.5×21 限250 木版10図入 少ヤケ 少シミ

35,000











481 『港都情景』

35,000

書窓版画帖十連聚其二 昭和16年12月 アオイ書房 川西 英・作 志茂太郎・刊 判型26.5×21 限250 木版10図入 少ヤケ 少シミ

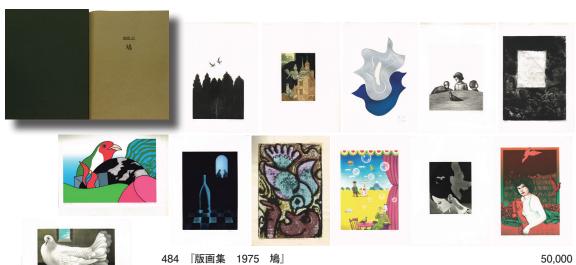


**482** 『わが町わがムラ版画集』 (小口一郎の作品か?) 85,000 1951年頃か 判型30×19 油性刷木版31図入(19.5×13.2他) 表紙をパラフィン紙で包む 奥付無 少ヤケ

序文「この版画集は小山町と栃木市を中心に 人として気の毒なこと馬鹿げたこと素晴らしいことや良いことや悪いことその他のことを取り出して皆さんに知ってもらいたい そこから どうしたら暮らしのよい町や村が出来るか考へて戴くために作って見ました そして少しでも世の中のために御利用出来るようにおねがひします(以下略)」



**483 『煉瓦以前』 2冊組** 昭和42年 著者・高尾亮一 協力・高尾道生 判型24.5×16.5 限10 木版 中頁に僅かにシミ



| 1975 | 鳩|| 50,000 | 1975年 元タトウ 小作青史/加藤清美/木村 茂/斎藤カオル/斎藤寿一/坂本好一/滝川 武/田村文雄/馬場梼男(マージン下部に少シミ)/二見彰一/山下清澄/矢柳 剛の木版・銅版12点入 20.6×22.3、22.8×18.8、29.6×17.8、17.7×14.2他



485 『日本出版美術家連盟版画集』 40,000 1993年8月第1回配布(今村恒美/木俣喜史/山岡康子)  $\sim$  1996年9月第10回配布(中村成二/松村あらじん/盛川有季) リトグラフ36作品入 限定60  $\sim$  100部 判型33×24 元タトウ(少汚れ)



**486** 『**鑿**』 ▼ 1983年 形象ギャラリー 限定134部の番外15 判型35.7×26 日和崎尊夫/柄澤 齊/城所 祥/栗田政裕/小林敬生/山本 進の木口木版各2点入 各サイン 全12点の内3点に少シミ



487 「詩と版画 軍艦献金作品集成 大東亜の花こよみ二 山百合花」

1943年7月 版画俱楽部発行(中島重太郎) 29.5×35(紙寸) 四つ折り 佐藤一英・詩/熊谷守一・木版 **28.000** 

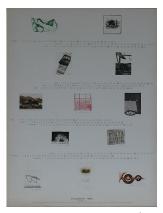


488 「詩と版画 軍艦献金作品集成 大東亜の花こよみ三 紫陽花」

1943年8月 版画倶楽部発行(中島重太郎) 29.5×35(紙寸) 四つ折り 千家元磨・詩/鈴木信太郎・木版 **25.000** 



489 「1984年芸大版画ポスター 2枚組」 1984年 各64×47.8(紙寸) 限180 サイン 野見山暁治/中林忠良/野田哲也/原 健ほか 銅版12図 全体に少シミ 少ヤケ 15,000



490 「1980年芸大阪画ポスター」 1980年 65×49.7(紙寸) 限130 サイン 野見山暁治/中林忠良/ 杉全 直/田村文雄ほか銅版12図 全体に少ヤケ マージン下辺汚れ 9,000



**491 「1981年芸大版画ポスター」** 1981年 49.7×65.5 (紙寸) 限130 サイン 野見山暁治/中林忠良/杉全 直/野田哲也ほか 銅版12図 少シミ **13.000** 

# 近代日本版画家名覧 (1900-1945)

## 〈凡 例〉

- 1、作家の選択は、凡そ1900 (明治33) 年から1945 (昭和20) 年までに版画制作の記録が残る作家 (アマチュアを含めて) を採録した。但し児童版画は含まない。
- 2、作家名については、典拠文献や参考文献を参照し、それ以外は一般的と思われる読みを採用した。
- 3、年記は西暦を基本として、生没年については()内に元号を表記した。
- 4、作品名は《》、書籍・雑誌・作品集などは『』内に表記した。[〕内は執筆者補記を示す。
- 5、版種について、特に記載の無い作品は木版画とする。
- 6、頻出する参考文献については以下のように表記する。
  - ・加治幸子編著『創作版画誌の系譜』(中央公論美術出版 2008年) →『創作版画誌の系譜』 ・『エッチング』(日本エッチング研究所発行/臨川書店復刻版 1991年) →『エッチング』
- 7、執筆者

植野比佐見 (和歌山県立近代美術館学芸員) 岩切信一郎 (元新渡戸文化短期大学教授) 加治幸子 (元東京都美術館図書室司書) 河野 実 (鹿沼市立川上澄生美術館館長) 清水久男 滝沢恭司 (町田市立国際版画美術館学芸員) (大田区立郷土博物館学芸員) 西山純子 (千葉市美術館学芸員) 武藤隼人 (埼玉県立新座柳瀬高校教員) (兵庫陶芸美術館館長) 森登 (学藝書院) 三木哲夫 山田俊幸 (大正イマジュリィ学会研究員) 樋口良一 (版画堂)

8、『版画家名覧』は、版画堂のホームページ http://www.hanga-do.com/ でもご覧いただけます。

# 戦前に版画を制作した作家たち(12)

## 【た】

## 大雲(たいうん) → 小村大雲(こむら・たいうん)

## 大耕(たいこう)

土井版画店より戦前作と思われる《〔柳に燕〕》の木版画を制作。【文献】『山田書店新収美術目録』72(2006夏)(樋口)

## 苔翠(たいすい)

「苔翠」名で、1929(昭和4)年に酒井川口合版(酒井 好古堂が制作、川口商会が輸出販売を担当)による《は けいとう》《芍薬》《紫陽花》《ダリア》《朝顔》の木版画5 点を制作。また1930年1月26日にニューヨークのフク シマ・ギャラリーで開催された新版画の展示会では、川 瀬巴水・鳥居言人・小森素石らとともに犬塚苔翠の植物 画6点が展示されたとの記録がある(ケンダール、H. ブ ラウン「1920・30年代の米国での「新版画」の興隆」『版 画学会 43』)。 苔翠については、一般に「犬塚苔翠」と称 されるが、「犬塚」 姓の典拠は不明。川瀬巴水の弟子の「犬 塚慶次郎」と同一人ではないかという説もあるが、こち らも確認はできていない。なお、犬塚慶次郎は、日本版 画奉公会会員(『日本版画』126では「犬塚慶三郎」となっ ているが、「犬塚慶次郎」の誤記と思われる)で、当時の 住所は東京芝区新橋町6丁目12で、版奉勤労隊の一人と して1943年に恩地孝四郎・西田武雄・今純三らと茨城県 にある満蒙開拓団内原訓練所への慰問写生会に参加し、 内原日輪兵舎を描いた合羽刷の風景画1図を制作してい る。【文献】『(エッチング改題) 日本版画』126(1943.7) / [Ukiyo - e Search] (https://ukiyo - e.org/) / [] [] 本の版画 V 1941-1950』展図録(千葉市美術館 2008) /『版画学会』43 (版画学会誌 2014.5) (樋口)

## 大道寺 達(だいどうじ・すすむ) 1912 ~ 2005

1912 (明治 45) 年 5 月 25 日札幌に生まれる。小学校 5 年生の時、宇都宮に移り、1925年旧制宇都宮中学校入学。 ここで美術サークル「パレット会」に入り、同級の川上 成多と親しくなったことからその兄川上澄生の存在を知 り、澄生を慕う宇都宮中の生徒たちによる版画誌『刀』 に創刊時から参加。第1輯(1928)に表紙および《ロー ソクと時計》《坂路》、第2輯(1928)に《雪のある高山》、 第3輯(1928)に《海ヲ朓メテヰル人》、第4輯(1929) に《劇場ノ或ル時》、第6輯(1929)に表紙および《Fue o fuku Otoko》、第7輯(1930)に《射的場》を寄せた。 1930年に宇都宮中を卒業した後は第一早稲田高等学院を 経て早稲田大学理工学部に進み、卒業後は池貝鉄工所で 働きながら版画制作を続けた。1940年畑野織蔵を知り、 勧められて「造型版画協会」に参加、同年の第4回展に 《寒夜 A》《寒夜 B》《海の宝石》、1941年の第5回展に《人 魚と漁夫(連作)》を出品(1943年に会友推挙)。1941年 の新協美術展覧会第5回展にも《海の幻想》(3点連作) を出品するが、戦争の激化につれて制作は停滞した。戦 後はディーゼル機関研究で名をなし、1962年に東京大学 より工学博士号を受け、同年から長く関東学院大学で教 鞭をとり学長も務めたが、木版画への意欲はやまず晩年

まで制作を続けたという。2005 (平成 17) 年 10 月 15 日 東京都大田区にて逝去。【文献】『版画をつづる夢 - 宇都 宮に刻まれた創作版画運動の軌跡 - 』展図録 (宇都宮美 術館 2000) / 『創作版画誌の系譜』 (西山)

#### 大夢庵・大夢一庵写 (たいむあん)

➡小笠原精一(おがさわら・せいいち)

## 高川正男 (たかがわ・まさお)

1937 (昭和 12) 年に東京の日本橋城東小学校で開催された日本橋区教育会主催による木版画講習会 (11.25 ~ 29 講師:平塚運一) に参加。講習会の記念として創刊された版画集『日本橋版画』創刊号 (1937.12) に《子供》、第2号 (1938.1) に《コンポジション》を発表。教師対象の講習会だったことから、当時は東京市日本橋区で教職についていたと考えられる。【文献】『創作版画誌の系譜』(加治)

## 高木一郎 (たかぎ・いちろう)

東京の文化学院専修科は1933(昭和8)年4月から石版や肖像画等の講習会を始め、エッチングについては日本エッチング研究所の西田武雄を講師に招き、第1回を10月に、第2回を11月にそれぞれ1週間開催した。在学中の高木はその第1回講習会に参加。その時制作した子供を描いたエッチング作品が西田主宰の研究所機関誌『エッチング』第12号(1933.10)に掲載されている。【文献】『エッチング』12·14(加治)

## 高木一夫 (たかぎ・かずお)

川上澄生が英語教師をしていた栃木県立宇都宮中学校 (現・県立宇都宮高等学校) 在学中に、同校生徒が創刊した版画誌『刀』に第2輯(1928)から参加し、1929年に同校を卒業するまで作品の発表を続けた。第2輯(1928)に《風景》、第3輯(1928)に《蝦》、第4輯(1929)に《水車ノアル風景》を発表。【文献】『版画をつづる夢―宇都宮に刻まれた創作版画運動の軌跡―』展図録(宇都宮美術館 2000)/『創作版画誌の系譜』(加治)

## 高木一雄 (たかぎ・かずお)

長野県師範学校二部1年に在学中、同校生徒発行による版画誌『樹氷』第2号(1940年版)に《水車》を発表。1941年に同校を卒業。『卒業生名簿 昭和25年』には「この時点で死亡」とある。【文献】『樹氷』2/『卒業生名簿昭和25年』(信州大学教育学部本校 1950)(加治)

# 高木省治(たかぎ・しょうじ) 1920 ~

1920 (大正 9) 年 1 月 1 日生まれ。須永卯平・伊上凡骨などの細工場で修行後、1934 年 4 月に摺師井上藤吉に入門する。1942 年佐藤勘治郎と細工場「桜工芸社」を設立。1943 年日本版画奉公会に入会、当時の住所は牛込区改代町で、恩地孝四郎・西田武雄・今純三らと茨城県にある満蒙開拓団内原訓練所への慰問写生会に参加。版奉勤労隊の一人として、内原日輪兵舎の風景を描いた木版画《内原風景》を制作する(『日本版画』132の「寄贈版画目録(海員報国団)」のリストでは「高木省三」となっているが、「高木省治」の誤記と思われる)。戦後は台東区元浅草に「高木蟹泡堂」を設立し、東京木版画工芸組合相談役などを務めた。弟子に松崎啓三郎・岩瀬孝市などがいる。なお、「日本版画奉公会」に就いては、滝沢恭司「[資料紹介]小野

忠重旧蔵日本版画奉公会々報、設立趣意書、規約」や西 山純子「日本版画奉公会」に詳しい。西山純子氏の調査 では、当時理事だった奥山儀八郎がまとめた1冊の画帖『日 本版画奉公会供出版画集』(奥山儀八郎控本 1943) があ り、今純三・西田武雄・小泉癸巳男・加治春彦・高木省治・ 大塚慶次郎・山口進・恩地孝四郎・奥山儀八郎の9作家、 ジンク版絵葉書、ジンク版・木版・エッチング・合羽版 による一枚摺版画、画稿を含む28点を収録。『日本の版 画 V 1941-1950』展図録には、そのうちの23点が図版入 で紹介されている。【文献】『(エッチング改題) 日本版画』 130~133/高木省治「昭和初期の木版摺業界 上・中・下」 『浮世絵芸術』 65·68·70 (日本浮世絵協会 1980·10~ 1981・10) /西山純子「日本版画奉公会」『日本の版画 1941-1950』展図録 (千葉市美術館 2008) / 滝沢恭司「[資 料紹介]小野忠重旧蔵日本版画奉公会々報、設立趣意書、 規約 | (町田市立国際版画美術館紀要 14 2010.3) (樋口)

#### 高木武雄 (たかぎ・たけお)

日本エッチング研究所の西田武雄はエッチング普及の ため、毎年夏休みに全国の小・中学校を回り、教師や生 徒のための版画講習会を行った。1938年の夏は北海道や 青森・北陸などを回り、7月28·29日の両日は北海道の 名寄中学校(現・北海道立名寄高等学校)でエッチング ・木版画・素描の講習会(講師:西田武雄・武藤完一・ 小野忠重ほか)を開催。当時、名寄中学校には版画教育 に熱心な教諭松田操がおり、自身の版画を制作する一方 で、図画教育の一環として生徒へのエッチング指導を行 い、研究所機関誌『エッチング』に講習会の受講記や随 筆などを投稿している。この年、名寄中学2年に在学中 の高木が講習会に参加した記録はないが、松田先生の教 えを受けて、銅版画の制作を行ったものと思われる。風 景を描いた作品が『エッチング』 第75号 (1939.1) に掲 載されている。【文献】小野忠重「北方記行」、松田操「名 寄講習日記」『エッチング』70(1938.8)/『エッチング』 75 (加治)

## 高木保之助(たかぎ・やすのすけ) 1891 ~ 1941

1891 (明治24) 年東京湯島に生まれる。1901年川端玉 章に師事。その後東京美術学校に転じ、1919年同校日本 画科選科を卒業。松岡映丘に師事し、映丘画塾の「木之 華社」に同人として参加。1921年映丘門下の岩田正巳ら によって結成された新興大和絵会に1923年より参加する。 この間、第1回帝展(1919)に初入選。第9回帝展(1928) の《はまなすの濱》、翌第10回帝展(1929)の《渚》が 連続して特選に選ばれ、1930年帝展推薦となる。その後 は帝展、新文展をはじめ1935年に結成された国画院にも 同人として参加し、東台邦画会や日本画院にも出品。大 和絵の伝統を継ぐ花鳥画を得意とした。1941 (昭和16) 年8月16日逝去。版画の制作は、新興大和絵会同人時代 に、新大和絵の手法による伝統的な日本木版画の再興を 図って1927年に刊行された木版画集『日本新名所図絵』 (大和絵絵画刊行会 全12図 山岸主計彫摺)に《日光》、 翌 1928 年に刊行された木版画集『大和絵 日本八景』(大 和絵絵画刊行会 全8図 小倉四郎彫・西村熊吉摺)に《華 厳瀧》の木版2図がある。【文献】岩切信一郎「日本近代 版画資料集成(1923~1929)」『東京文化短期大学紀要』 (2002.3) / 『山田書店新収目録』22 (1995.7) (樋口)

## 高倉 昇 (たかくら・のぼる)

大分ではじめての版画講習会が創作版画倶楽部主催、 講師平塚運一により 1931 年8月3日から7日に大分県師 範学校で開催された。開催を記念して武藤完一は版画誌 『彫りと摺り』(1931~1933)を創刊する(編集後記『彫 りと摺り』創刊号)。高倉の版画講習会への参加は記録さ れていないが、その第2号(1931.11)に《日田の横穴》 を発表。「太古の古墳だそうです。気恥ずかしくて一寸画 集にのせていただくには躊躇したのですが」と作者言を 寄せている。1931年当時、日田郡日田町竹田に在住。そ の後、『彫りと摺り』は『九州版画』(1933~1941)と改題。 1935年8月に同じく大分県師範学校において版画講習会 (講師:平塚運一、畦地梅太郎 5日間)が開催され、高 倉も参加。その時の作品《厨房一隅》が『九州版画』第 8号 (1935.10) 講習会記念号の表紙絵になった。第11号 (1936.7) には《古城春色》を発表する。武藤完一は1936 年8月24日に日本エッチング研究所の西田武雄を迎えて エッチング座談会(参加者 18 名、大分市桜町クラブ)を 開催する。高倉も参加しており、当時の所属は大分市高 等小学校となっている。【文献】武藤完一「西田先生を迎 えての座談会」『エッチング』47号(1936.9)/『創作版 画誌の系譜』(加治)

## 高桑了英(たかくわ・りょうえい) 1915 〜没年不詳

1915 (大正 4) 年〔岐阜県高山市〕に生まれる。本名は渡辺了英か。1935 年岐阜県師範学校卒業。武井武雄が主宰する年賀状交換会「榛の会」会員で第6回から第22回(1940~1956)まで連続で出品。第6回(1940)では「渡辺了英」の名前で住所は高山市南校。第7回(1941)以降は第22回(1956)まで「高桑了英」の名前で住所は高山市大新町1-99へと移転。日本板画院東海支部(愛知・岐阜・三重)所属。青山綾子『ひだのわらべうた』(1968.10)の表紙絵と扉絵を版画で制作、木版蔵票の制作などもある。1966 年制定の「高山市民憲章」推進起草委員会委員の一人に名を連ねるが、詳しい経歴は不明。【文献】『第21回榛の会ガリ版通信』(1955)/市道和豊『奇跡の成立榛の会昭和21年-芸術集団の戦中・戦後-』(室町書房 2008)/『広報 高山の文化』169(高山市文化協会2015.9)(樋口)

## 高澤市郎 (たかざわ・いちろう)

創作版画倶楽部を主宰した中島重太郎は《新東京百景》の頒布にあわせて、創作版画への理解と愛好のための情報誌『版画 CLUB』(1929~1932)を刊行する。一般から版画を公募し、誌上に掲載したが、高澤はその第1年6号(1929.12)の「CLUB 紙上展」第4回のB[二席]に《散歩》が入賞する。選者藤森静雄は「高澤氏の諸作は大変摺りがキレイでした。只《散歩》と《散髪屋》との2枚でいづれが氏の本領か分らない様でした。《散歩》にはエキゾチックな好みを面白く見ました」と評している。【文献】『版画 CLUB』1 - 6(1929.12)/『創作版画誌の系譜』(加治)

#### 高沢哲夫 (たかざわ・てつお)

長野県下水内郡の小学校教師の集まりであった下水内郡手工研究会が発行した版画誌『葵』の第1号 (1934.9) に《子供》を出品する。【文献】『創作版画誌の系譜』 (加治)

## 高志 譲(たかし・ゆずる)

1935 (昭和10) 年の第4回日本版画協会展に木版画《利

根川駅》《県庁》《万国橋》の3点が初入選。出品時は横浜に住む。以後、第5回展(1936)に《横浜税関》《横浜弁天通り》、第6回展(1937)に《異人墓地(横浜百景ノ内)》、第7回展(1938)に《河口湖》《井土ヶ谷風景》を連続して出品。なお、姓の読みについては「こし」の可能性もあるが、目録の並び(五十音順)から「たかし」とした。【文献】『第四回日本版画協会展覧会及日本現代版画米国展準備展観目録』(1935)/『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研究所 2006)(三木)

# 高島雲峰(たかしま・うんぽう) $1894 \sim 1987$

1894 (明治27) 年5月山形県北村山郡 (現・村山市) に生まれる。本名孝蔵。「雲峰」その後「祥光」と号す。 1912年県立村山農学校卒業。1915上京して太平洋画会研 究所で洋画を学ぶが、1917年に帰郷し、小松雪涯に日本 画を学ぶ〔この頃より「雲峰」と号したのではないかと 思われる]。1919年再度上京して山内多門の画塾に入門。 1921年日本大学美学科に入学するが、1923年9月の大震 災で閉鎖となる。「雲峰」名で中央美術展の第2回展(1921)・ 第6回展(1925)、帝展の第8回展(1927)に入選。1933(昭 和8)年南画家小室翠雲に師事し「この頃より「祥光」と 号したのではないかと思われる]、日本南画院に出品、同 院解散後は南画連盟などに出品の傍ら、「祥光」名で第15 回帝展(1934)、第6回新文展(1943)、1943年と1944年 の陸軍美術展などにも出品する。この間、1940年大東南 画院の結成に参加し、委員となる。1945年6月戦災のた め山形に帰郷。戦後は山形県内の日本画家グループ「春 光会」を主宰し、多くの後進を育てた。1966年第12回齋 藤茂吉文化賞を受賞。1987 (昭和62) 年3月6日山形市 で逝去。版画の制作は、近藤紫雲・井川洗厓・柴田耕洋 らと競作の木版画集『大正震災画集』に「高島雲峰」筆 名で《本所方面(6)》《上野附近(15)》2図の制作がある。 なお『大正震災画集』については不明な点がある。まず 1924年から1927年にかけて絵巻研究会編で13回に分け て頒布された日本版画社版(袋入で全26図か)と1926 年に画帖立で刊行された絵巻研究所版(一般には全25図 〔山田書店美術部オンラインストアでは26図〕、国立国会 図書館サーチでは図版28枚となっているが、未見)の2 種があり、何図制作されたのかが明確でない。また画帖 仕立ての絵巻研究所版においては、第10図が井川洗厓《墨 田土堤下の惨状》の場合と濱田如洗《火に追われ水に溺る》 の場合の2種類ある。以上については、調査不十分で、不明。 【文献】『版画にみる東京の風景-関東大震災から戦前ま で-」展図録(大田区立郷土博物館 2002)/「齋藤茂 吉文化賞受賞者 - 山形県ホームページ」(2016.5.15)(樋口)

#### 高島祥光 (たかしま・しょうこう)

➡高島雲峰(たかしま・うんぽう)

#### 高瀬一成 (たかせ・かずなり)

川上澄生が英語教師をしていた栃木県立宇都宮中学校(現・県立宇都宮高等学校)では、高瀬在学当時の1940年、廃刊となっていた同校生徒発行の版画誌『刀』(1928~1932)の再刊を意図して5年生の加地春彦・小松行高らが中心となって版画誌『刀 再版』(1940~1941)を創刊する。4年生の高瀬も第1号(1940)に《歩哨》、第2号(19401)に《子供》、第3号(1941)に《いわし》を、5年生に進級後の第4号(1941)に《打者》、第5号(1941)に《ホテル前》を発表。その後、高瀬ら会員の5

年生が卒業すると『刀 再版』の刊行は途絶えた。【文献】 『創作版画の川上澄生』展図録(鹿沼市立川上澄生美術館 2002)/『創作版画誌の系譜』(加治)

## 高瀬光治 (たかせ・こうじ)

豊橋中学校に勤務する細島昇一らが中心になって 1936 年9月23日に豊橋中学校で開催した豊橋エッチング協会 例会に参加。肖像画作品を制作する。豊橋エッチング協 会会員。【文献】『エッチング』47・48 (樋口)

## 高瀬文治 (たかせ・ぶんじ)

1933(昭和8)年9月の第3回日本版画協会展に木版画《休日》が初入選。当時、東京に住む。続けて、小野忠重らの「新版画集団」(1932 結成) に参加し、同年12月の『新版画』第11号(12.25) に《喫茶店にて》、翌1934年2月の『賀状集 新版画』に《年賀状》を発表するも、4月の小品展(8~12 銀座・版画荘)や『新版画』第12号(4.10)には名前が無いので、短期間で退団したようである。その後は、1935年の第4回日本版画協会展に《フルーツ》《をんな》、翌1936年の第5回展に《ごはん》を出品している。【文献】『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研究所 2006)/『創作版画誌の系譜』(三木)

## 高田一夫(たかだ・かずお) 1906 ~ 1982

1906 (明治39) 年4月29日山口県徳山に生まれる。 1915年父の日本製鉄株式会社八幡製鉄所就職に伴い、福 岡県八幡へ転居。1920年福岡県遠賀郡底井野村高等小学 校を卒業。八幡製鉄所技能者養成所に入所し、鉄冶金を 学ぶ傍ら、翌1921年4月より油絵を始める。この頃、北 川実と交友か。1922年(一説には1924年)同所を卒業 し、八幡製鉄所第二製鋼課に勤める。1928年「全日本無 産者芸術連盟 (ナップ)」の八幡支部に参加するも、短期 間で組織から離れた。1931年初めて上京。滞在中は画家 として成功していた北川実の世話になる。翌1932年に開 かれた第7回国画会展(5.7~24 東京府美術館)の会場 で棟方志功を知る。その影響もあってか、6月より木版 画を始める。1935年の第12回白日会展に《工場》、第10 回国画会展に《霧島山大浪池》が初入選。国画会展へは その後も出品し、第11 回展(1936) に《上海 CANNI DROME の夜》、第12回展(1937)に《鹽焼く家》、第13 回展(1938)に《戦跡(上海北停車場)》、第14回展(1939) に《戦跡》《風景湖畔》、第17回展(1942)に《鋼鉄増産図》 が入選した。また、1936年の第5回日本版画協会展にも《蘇 州迎春橋》《蘇州虎邱山》が初入選。その後も、第6回展 (1937) に《製塩場の朝》《坑口》《硬炭山》、第8回展(1939) に《銭塘江岸六和塔》、第9回展(1940)に《熔岩の火口(阿 蘇)》、第10回展(1941)に《山と雲》《瀧》、第11回展(1942) に《鋼を汲む》を出品し、1943年には会員に推挙された。 その間、1938年に朝日新聞従軍記者の資格で中支の陸軍 部隊に約2ヶ月従軍。1942年に八幡製鉄所産業報国会事 務局情報掛を命ぜられ、製鉄所時報『くろがね』の編集 を担当。翌1943年には「日本版画奉公会」の会員となっ た。戦後は、1952年に職場の絵画サークル「生活美術協 会 | を創立し、後進の指導にあたる一方、1955年頃に「日 本板画院」(1952年に棟方志功が中心となり結成)の会員 となっている。また、1950年代から「民芸運動」に共鳴し、 1959年の三宅忠一による「日本民芸協団」の設立に協力。 同協団の九州連合会事務局長を引き受けた。1961年八幡 製鉄所を定年退職。この年から「日本工芸館小石原分館 | の館長を務めるとともに、民芸品店「民芸の倉」を始めた。 1971 年には三宅との「民芸」に対する考えの違いから協団を離脱し、「民芸の倉」を拠点に、同年から 1978 年にかけて民芸研究誌『用と美』17 冊を刊行した。 1982(昭和 57)年 2 月 24 日北九州市で逝去。著書に『築炉工小屋原総三郎伝』(東京工業学院 1943)『九州・沖縄の民藝』(栄宝社 1963)『民藝のこころ』(日研出版 1964)などがある。また、『用と美』第 18 号(1962 年秋号、最終号、未見)は高田一夫の追悼号であった。【文献】『日本版画協会会報』 36(1944.1)/『高田一夫一美術・民芸・生活一展』図録(北九州市立美術館 2006)/『昭和期美術展覧会出品目録戦前篇』(東京文化財研究所 2006)(三木)

## 高田知明(たかだ・ともあき)⇒浜田知明(はまだ・ちめい)

#### 高田芳穂 (たかだ・よしほ)

長野県安曇野地方の小学校教師たちは、版画家として活躍していた郷里の先輩武田新太郎を顧問に迎えて「黄樹社」を組織し、版画誌『黄樹』(1937~1938)を発行した。その創刊号(1937.3)に《歌聖》、第2号(1938.5)に《雪》を発表。当時、北安曇野郡池田小学校に勤務。【文献】『創作版画誌の系譜』(加治)

#### 高谷佐武郎 (たかや・さぶろう)

青森県師範学校在学中、「青師コバルト会」会員として 今純三の指導・影響を受けたひとりで、1931(昭和6)年 同校卒業後も版画制作を続け、翌1932年今純三・川崎正 人を顧問に迎えて、北山秀雄・三上正男・工藤良蔵らと「純 羊会」を結成し、同年第1回展を開く。1935年8月21日 の西田武雄を講師に招いて木造町で開催された「エッチ ング座談会」への参加は不明だが、1938年8月5日に西 田武雄・武藤完一・小野忠重・林紀一郎を講師に迎えて 開催された教員対象の「木造中学校〔版画〕講習会」に は参加。当時、西部林小学校教員で、『エッチング』 56号 (1937.6) にエッチングを始めた頃を回想した「エッチン グー年生の所感 | を寄稿。59号(1937.9) にエッチング 作品《〔風景〕》の図版が掲載され、70号(1938.8)には 木造中学校講習会記「避寒の地に西田先生を迎へて」、76 号(1939.2) に「随想録」の寄稿がある。1943年当時は 青森県富范国民学校に勤務し、版画奉公会会員に名を連 ねる。戦後も青森県の版画教育にかかわり続け、1951年 頃多色摺の木版画なども制作しているが、この頃に風間 小学校校長となり、版画教育の現場からは離れたという。 【文献】江渡益太郎『青森県版画教育覚え書』(津軽書房 1979) (樋口)

#### 高根宏浩(たかね・こうこう) 1902 ~ 1979

1902 (明治 35) 年 2 月 15 日東京箱崎町に生まれる。20 代で松岡映丘に師事し、大和絵風の日本画を描く。新興大和絵会第 9 回展(1929)に《早春》、同第 10 回展(1930)に《うすれ日》、第 2 回聖徳太子奉讃美術展(1930)に《瓦つくり》、第 15 回帝展(1934)に《少女復習図》、第 6 回新文展(1943)に《豊穣讃》などを出品する。その後歌舞伎の舞台美術家となり、6 世中村右衛門の作品を中心に、舞台装置図や衣装図などに数多くの作品を遺す。代表作に、「隅田川」「おちくぼ物語」「大津絵道成寺」「鰯売恋曳網」等々。『組上燈籠考』(1971 私家版か)の著作がある。1979(昭和 54)年 4 月 10 日逝去。版画の制作は、戦前作と思われる《杜鵑》(大鈴舎版)、《花時雨》の木版美

人画 2 図の制作が知られている。【文献】高根昌恵「高根宏浩略歴」(版画堂宛私信 2016.5.27) / 『現代画家番附』 昭和 15 年改正版(美術倶楽部出版部 刊年不明) / 『山田書店古書目録』11 (1988.7) / 『版画堂目録』39 (1999.12) (桶口)

## 高野健介(たかの・けんすけ)

大分で刊行された版画雑誌『郷土図画』第1巻第5号 (版画特別号) (1931.10) によると、1931年8月に大分市で開催された創作版画倶楽部主催の「大分市に於ける版画展」(5~6日 竹町丸吉呉服店階上) に中島重太郎所蔵の版画と同年6月東京で開催された「第1回新興版画展」(創作版画倶楽部公募の版画展:21~25 新宿三越)の出品作品合わせて130点余が陳列され、高野の作品1点も出品されたと記されているが、作品は未見。【文献】『郷土図画』1-5 (樋口)

#### 高野信哉 (たかの・しんや)

長野県下水内郡の小学校教師の集りであった下水内郡 手工研究会が発行した版画誌『葵』第3号(1936.7)に《英 霊を葬ふ》を発表。当時、下水内郡永田小学校(現・中野市) に勤務。【文献】『創作版画誌の系譜』(加治)

#### 高野武郎 (たかの・たけお)

1920年代に音楽・演劇・文学・絵画などで活動してい た痕跡を残すが、生没年など詳細は不明。築地小劇場の 開設で知られる土方与志は、東京帝大に入学した1919年 自宅に小規模ながら舞台設備を備えた「模型舞台研究所」 を造り、同研究所に土方久功・齋藤佳三・伊藤熹朔らと ともに高野も集い、舞台装置や照明などの研究を行う。 翌 1920年4月にその研究成果発表のため「模型舞台展覧 会」(友達会主催 10~15)を開催する。高野は山田耕 **筰作曲のバレエ「ケンタワーとニンフ」の舞台場面を制作・** 発表した。また同年6月に岡田三郎助らの発企で初個展 となる「高野武郎氏洋画発表会 | (9~13 銀座・資生堂)を、 1925 年 7 月に「高野武郎氏素描展 | (6~8 銀座・資生堂) を開催する。版画については、三木露風などが発行して いた文芸誌『牧神』(牧神会 1920.10~1921.6 全8冊) の第7号(1921.5?) 表紙絵を木版(あるいはリノカット か)で制作している。【文献】『資生堂ギャラリー七十五 年史 1919~1994』(株式会社資生堂企業文化部 1995) /『躍動する魂のきらめき-日本の表現主義』展図録(栃 木県立美術館ほか 2009) (樋口)

## 高野仙吉 (たかの・せんきち)

長野県下水内郡の小学校教師の集りであった下水内郡 手工研究会が発行した版画誌『葵』第3号(1936.7)に《雪原》 を発表。当時、下水内郡永田小学校(現・中野市)に勤務。 【文献】『創作版画誌の系譜』 (加治)

## 高野秀雄 (たかの・ひでお)

1929(昭和 4)年の第 2 回プロレタリア美術大展覧会(12.1~15 東京府美術館)に版画《立て飢えたる者よ!》《兄弟心配するな》《工場》《炭鉱夫》《デモ》を出品。【文献】岡本唐貴・松山文雄編『日本プロレタリア美術史』(造形社 1967) / 『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研究所 2006) (三木)

## 高野正哉 (たかの・まさや)

生没年不詳。彫刻家・中原悌二郎が1906 (明治39) 年 白馬会赤坂溜池研究所入所時期に親しくなった友人に鶴 田吾郎・広瀬嘉吉・白山仁太郎・雨宮雅郷とともに高野 正哉がおり、後に入所してきた中村彝を入れて親しく 交遊。中原悌二郎『彫刻の生命』(中央公論美術出版 1993) には、「友人への手紙」で高野正哉宛書簡 2 通が紹 介されている。また、鶴田吾郎の『半世紀の素描』(中央 公論美術出版 1982) によると、高野は土佐の人で、白 馬会研究所以前は川端玉章のところで日本画をやってい て、1905年に太平洋画会研究所が新設されると、鶴田に 続いて高野、更に中原・中村らも太平洋画会研究所へ移 り、その頃に撮った写真が遺されている。また、鶴田は 大連でロシア人イリヤ・ニンツアと再会し、ニンツアが 日本へ行くというので、高野を訪ねるようにと勧めた。 高野は1919年ニンツアをエロシェンコが起居する新宿の 中村屋に連れて行き、そこで中原悌二郎はニンツアと知 り合い、モデルを依頼する。ちょうど療養のため茨城の 平磯へでかけて不在だった中村彝のアトリエを借りてニ ンツアをモデルに代表作となる《若きカフカス人》を制作、 未完成のまま同年の第6回院展に出品した。その頃の高 野は大井町に住んでいて、「名も知られずに水墨画に異状 な感覚を現していた」(松尾信資編『孤高の芸術家 藤井 達吉翁』丸善1965)というが、白馬会展や太平洋画会 展などへの出品歴は見当たらない。

版画の制作は、1914年1月に開店した三笠美術店の機 関誌『藝美』(1914.6~1914.10 全5冊)の第1年第4 号 (1914.9) と第1年第5号 (1914.10) の表紙画カット を〔自画自彫〕木版画で制作する。『藝美』第1年第5号 の「消息集」には、「高野正哉画会」を設け、「自画自彫 画」による装幀・表紙絵・扉絵・カットなどの依頼に応 ずる旨の記事が掲載されいて、申込先は「府下荏原郡北 品川 260 清光寺院内秋庭俊彦宛」、あるいは「荏原郡大井 町333山内家別邸高野正哉宛」となっている。また、鈴 木三重吉が1915年に刊行した『三重吉全作品集』(全13 巻) では、1~10巻を津田青楓、11~13巻は津田に代 わって高野が装幀(伊上凡骨摺)を手掛けた。津田は『藝 美』第1年第4号に評論、第5号に随筆を寄稿。なお、『藝 美』第1年第1号から第3号(19145~7)の表紙絵を工 芸図案家の藤井達吉が自彫木版画で制作しており、藤井 は1936年に上野梅川亭で高野や日本画家の堀田善種・村 田龍太郎、相原章二らと絵画・工芸作品の展覧会「伍草 会展」を開いている。高野は津田や藤井とも親交があっ たようだ。そのほか俳句雑誌『ホトトギス』第19巻第10 号(1918.7) 裏絵《唐辛子畑》の制作や中村彝と親しかっ た福田久道発行の美術雑誌『木星』第2巻第5号(木星 社 1925.5) に「或る日」の寄稿がある。 【文献】 山田光 春『藤井達吉の生涯』(風媒社 1974) /鶴田吾郎『半世 紀の素描』(中央公論美術出版 1982) /瀬尾典昭「三笠 美術店と近代の工芸について | (『大正イマジュリィ』6 2011.3) (樋口)

## 高羽 敏(たかば・びん) 1902 ~ 1982

1902 (明治 35) 年 12 月 14 日徳島県三好郡井川村に高 羽家の三男として生まれる。少年期よりエッチングに憧れ、戦前から戦後没年まで一貫して精緻な銅版画を制作した。本名は貞敏 (さだとし)。1918 年頃より大阪・天彩画塾、1920 年頃より東京・本郷洋画研究所で学ぶ。1923年神田・文房堂にて同人らと「赤踏社展」を開催するも、

関東大震災で制作を断念。放浪生活を経て、1924年大阪 で兄・貞夫と共に『同心草』創刊。以降、同誌に木版画 を発表する。その後、図案を仕事にする傍ら、西田武雄 と出会い 1937 年頃よりエッチングに着手。1939 年の第3 回文展《奇礁》入選を機に、1940年紀元二千六百年奉祝 美術展に《竹薮》、1942年第17回国画会展に《子供ト石 仏構図第三》、1943年同第18回展に《枯蓮》、第3回兵庫 県新美術連盟展に《童女》、第6回文展に《草》が入選した。 武藤完一との親交から『九州版画』第19~22号(1939.6 ~ 1940.11) にエッチングを発表。武井武雄『榛の会』に も 1941 ~ 1956 年まで計7回参加している。1940年「日 本エッチング作家協会」創立会員となり、第1~3回展 に出品(1940~1942)。また、大阪・阪急でエッチング 個展を計3回開催(1940~1943)。その他、1941年高羽 が中心となり西田や武藤・中井平三郎・横山信也・西村 貞らと「大阪エッチャー小集」開催、1942年西田・神原浩・ 兼行武四郎と「エッチング展観と講習会」(兵庫・神戸画 廊) の講師を務めるなど、戦前の関西エッチング界を牽 引した。1943年頃、満州国哈爾浜で個展を開くが詳細不明。 1944年新京に移住し、造幣の会社に勤めた。「鷹波三吉」 の名による『マンシウコク』(1943.4 日本出版配給株式 会社)などの絵本や1944年の第19回国画会展出品作《寛 城子の子供達》に中国のモチーフを確認できる。一方こ の頃、頒布作品集「高羽敏銅版画作品」へ発表の場を移し、 『大阪風物』(1944)、1947年大阪吹田市へ引き揚げ後は『満 洲風物』(1954)、『埴輪連作』(1970~1971)、『草木虫魚』 (1972~1980、計3集)を手がけた。戦後、アクアチン トやメゾチントなどの技法も取り入れ、一陽会の第10・ 11 回展(1964・1965)に出品するも、第一線からは退き、 独自の制作を続けた。晩年、吹田市の銅版画家西澤静男 と親交を深めている。1972年「高羽敏、三上大泉、西村 寅 三人展」(大阪·高麗橋画廊) 開催。1982 (昭和 57) 年10月13日大阪で逝去。【文献】「履歴書|『エッチング』 84 / 『開館 10 周年記念展 近代徳島の美術家列伝 明治か ら第二次世界大戦まで』展図録(徳島県立近代美術館 2000) / 『今純三・和次郎とエッチング作家協会』 展図録(渋 谷区立松濤美術館 2001) /武藤隼人『高羽敏研究』(自 家出版 2015) (武藤)

## 高橋市次郎(たかはし・いちじろう) $1892\sim1970$

1892 (明治25) 年栃木県に生まれる。川上澄生が英語 教師をしていた栃木県立宇都宮中学校(現・県立宇都宮 高等学校) の教師として、1922年から1950年まで数学を 教えていた。川上先生の版画欲しさから同校生徒が発行 した版画誌『刀』(1928~1932) に第7輯から参加。第 7輯(1930)に《鍵》、第8輯(1930)に《あやめ》、第9 輯 (1930) に 《海岸の松》、第 10 輯 (1931) に 《OMEDETO》、 第13輯(1932)に《ランプ》を発表。『刀』に参加する 大きな要因となったのは、創刊会員・高橋守の実父であっ たからと考えられる。その後、『刀』は休刊し、1940年に 後輩たちによって『刀 再版』(1940~1941)として再 刊されるが、その時も生徒に勧められたようで、第2号 (1940.10) に《楓樹》、第3号(1941) に《私の便箋》、第 5号(1941)に《妙義の早春》を発表している。その後、 版画制作は行っていない。1970(昭和45)年に逝去。【文献】 『版画をつづる夢―宇都宮に刻まれた創作版画運動の軌跡 一』展図録(宇都宮美術館 2000)/『創作版画誌の系譜』 (加治)

## 高橋勝雄 (たかはし・かつお)

長野県下水内郡の小学校教師の集まりであった下水内郡手工研究会が発行した版画誌『葵』の第1号(1934.9)に《山と木》、第2号(1935)賀状号に《猪》を発表。【文献】『創作版画誌の系譜』(加治)

## 高橋キツ (たかはし・きつ)

日本エッチング協会会員中村正雄(松尾鉱業 K.K. の常務 取締役)の招致により、私立松尾鉱山小学校(岩手県) において、1937 年 9 月 4・5 日の 2 日間、講師西田武雄に よるエッチング講習会(5 日には青森の今純三が助手を 勤める)が開催された。当時、在学中の高橋は講習会に 参加したとみられ、その時制作されたバラを描いた作品 が西田主宰の日本エッチング研究所機関誌『エッチング』 第59号に掲載されている。【文献】女麻卓「受講の記」(『エッ チング』59号 1937.9)/『創作版画誌の系譜』(加治)

#### 高橋春佳 (たかはし・しゅんか)

大正末から昭和10年代にかけて、京都・大阪で活躍。 絵葉書図案・図案集の出版、幼年倶楽部の仕事などに携 わる。早くは明治末の神坂雪佳の画塾の展覧会に「高橋 春佳」名があらわれるが、日本画の肉筆十二月色紙など も残しており、それが絵葉書図案家「高橋春佳」と同一 人と思われる。本名は「孝一」か。

絵葉書の版元は主として京都の山口青旭堂。それより 先に「ヤマト」という版元での簡単な図案絵葉書の仕事 がある。大正期の春佳の足跡はさしたる情報もなく、な かなか辿り難いものの、高橋春佳の編集で出版された図 案集にはフランスのデザイン情報が満載されており、そ れからすると、神坂雪佳画塾の後、あるいはしばらく日 本を離れていた可能性もある。ではあるが、その仕事が 顕著になるのは、やはり山口青旭堂の絵葉書図案を始め た大正末からだろう。

山口青旭堂での良質な仕事は、主として昭和のものが 多い。春佳名の「春」の図案文字を丸で囲んだ一連のグ リーティング・カードがそれで、とりわけ暑中見舞絵葉書・ クリスマス絵葉書・干支図案の年賀絵葉書が注目される。 また、そうしたデザイン絵葉書だけでなく、絵葉書袋を デザインしたものも多い。これらは観光写真絵葉書の袋 であるので、絵葉書そのものにはサインは無いものの、 その一部には、モダンで斬新なデザインを施したものが ある。サインが無いため、そのすべてを春佳と確定する わけにはいかないが、銀の図案枠で写真を包むデザイン・ スタイルがなかなか魅力的で、これなどは雪佳の元で琳 派を学んだ春佳ならではのものだろう。忘れられがちだ から、これは記しておく。絵葉書はだいたい4枚組。山 口青旭堂は、毎年業者用の『新年用絵葉書・クリスマス 用カード総見本』を出していたようで、その「昭和四年」 を写す。『高級クリスマス用絵葉書』木版手摺《幸の鐘》 《みめぐみの宵》《静けき夜空》《星に祈る》(以上卸価格・ 100 セット 18 円)。石版《鐘は鳴る》《主のみめぐみ」》《聖 きみそら》《嬉しき夢》《聖きクリスマス》《クリスマスの 喜び》《祈りの幸》《クリスマスの聖夜》《クリスマスの恵》 《聖なる灯》《聖き祈り》(以上卸価格・100セット9円)。『高 級新年用絵葉書』《巳の新春》《巳の春》《抒情百人一首(第 一輯)》《抒情百人一首(第二輯)》(以上卸価格・100セッ ト9円)。8枚組女子用『初だより』男子用『初だより』(以 上卸価格・100セット6円)。16枚組『昭和式図案十六種』(以 上卸価格・100 セット1円20銭)。その他、春佳は枝折り

などの仕事もしているが、戦後の足跡はうかがうことができない。【文献】山田俊幸監修『大正・昭和の乙女デザイン』(ピエ・ブックス 2009) /山田俊幸監修『大正イマジュリィの世界』(ピエ・ブックス 2010) /『エハカキ』(日本絵葉書会会報 56 2016.3) (山田)

## 高橋昌平(たかはし・しょうへい)

1942 (昭和 17) 年の造型版画協会第6回展 (4.25 ~ 5.4 東京府美術館) に石版画《雑談》、翌1943年の第7回展 (4.3 ~ 11 東京府美術館) に石版画《斥候兵》《鉄牛尖撃》を出品。【文献】『造型版画協会第六回展覧会作品目録』(1942) / 『造型版画協会第七回展覧会出品目録』(1943) (三木)

#### 高橋太三郎(たかはし・たさぶろう) $1904 \sim 1977$

1904 (明治 37) 年京都に生まれる。1923 年京都市立美 術工芸学校絵画科を卒業し、京都市立絵画専門学校へ進 学。卒業制作の日本画《風景》は学校の買い上げになっ ている。1926年絵画専門学校絵画科を卒業。土田麦僊に 学ぶも、時期は不明であるが永瀬義郎の影響を受け木版 画に転じたという。1928年の第9回帝展に木版画《玉乗り》 が初入選。その後も1934年の第15回展に《道頓堀夜景》、 1941年の第4回新文展に《静物》を出品。また、1935年 の第4回日本版画協会展に《花》が初入選。翌年の第5 回展にも《静物》を出品した。その間、京都においては 1929年の「京都創作版画協会」の結成に参加し、第1回 展 $(2.1 \sim 5$  京都大丸)に《支那人形》他 1 点、第 2 回展(会 期不明)に《牡丹》《人形》《海の幸》を出品。また、「新 樹社」にも参加し、1930年の第2回展(6.7~9 京都市 第二勧業館)に《赤い卓の上の静物》《人形》を出品。続 けて、公募展である京都工芸美術展の第4回展(1933)・ 第6回展 (1936) などの他、京都市展の第1回展 (1935) に《花》、第2回展(1937)に《湖畔新緑》が入選。1936 年には京都の武田新太郎、大阪の島田要・中田一男、神 戸の神原浩らと「関西版画協会展」(5月上旬 大阪、心 斎橋・大丸) を開催しているが、詳細は不明である。戦 後は、1948年に亀井藤兵衛・琴塚英一・徳力富吉郎と「紅 緑社」を結成。1949年の井上豊久展(4.29~5.3 京都・ 丸善画廊) に紅緑社のメンバーと賛助出品。1951年には 徳力らと「京都版画協会」を結成した。1977(昭和52) 年11月11日京都市で逝去。【文献】岡田毅「京都におけ る創作版画運動の展開」『京都府総合資料館紀要』12(1984) / 『京都の近代版画─円山応挙から現代まで─』 展図録 (京 都市美術館 1996) / 『百年史 京都市立芸術大学』 (1981) /『大正期美術展覧会出品目録』(東京文化財研究所 2002) / 『昭和期美術展覧会出品目録戦前篇』(東京文化 財研究所 2006) (三木)

## 高橋忠雄(たかはし・ただお)

愛知県半田の小学校教員で、1931 (昭和6)年7月に平塚運一が講師を務め、愛知県半田市亀崎第一尋常高等小学校で開かれた版画講習会に参加したと推定される。その後、9月の第1回日本版画協会に木版画《亀崎風景》が初入選。また、平塚の講習会参加者によって組織された「版刀会」(1928.7 発足か)が発行する版画誌『運』の第5号(1931)に《暑中御伺》《〔草花〕》、第6号(1931)に《蔵書票》、第7号(1932)に《方寸版画(6点)》《蔵書票》を発表した他、1932年の『版芸術』第9号(1932.12)の「全日本版画家年賀状百人集」にも《年賀状》を発表している。1933年7月には、亀崎第一尋常高等小学

校で開かれた平塚の第3回版画講習会に参加。平塚や受 講生による『三河国矢作川ガラ紡水車船版画集』(版刀会 30部限定)に作品を寄せた。また、同年9月の第3回 日本版画協会展に《七本木池》《濁池の畔》を出品。1935 年4月には長野県須坂で発行されていた『櫟』第6輯に 《年賀状》(画面の住所は「亀崎|)を発表している。その 後、時期は不明であるが兵庫県明石市の小学校への異動 があったものと思われ、1939年の第8回日本版画協会展 に《明石公園》《編物》《影》、1940年の第9回展に《工作》 を出品。また、1941年秋には平塚の主宰する「きつつき 会」の結成に参加。1942年の第1回きつつき会版画展(7.21 ~ 25 銀座・青樹社) に《亀崎風景》《舌切雀》を出品 し、出品作を集めた版画集『昭和十七年版きつつき版画集』 (8.25) にも《舌切雀》を発表した。なお、この時の会員 名簿の住所は、「明石市外林崎村船上二丁目七八」とある。 その後の活動は不明である。【文献】『第一回きつつき会 版画展出品目録』『きつつき会々員名簿』(1942) / 『加 藤祐子「平塚運一による版画普及活動の一端:版画講習 会開催とその余波-愛知県半田市亀崎を例に-」『版画家・ 平塚運一の世界展 - 版画三昧 画業80余年の軌跡 - 』 (高浜市きものの里かわら美術館 2003) / 『昭和期美術 展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研究所 2006) / 『創作版画誌の系譜』(三木)

## 高橋忠弥 (たかはし・ちゅうや)

1912 (明治 45) 年 4 月 25 日東京市神田区松住町 17 番 地 (現・千代田区外神田) に生まれる。1919年北海道空 知郡砂川村に移住。1922年母の郷里の岩手県盛岡に転居。 1927年岩手県師範学校本科一部に入学。哲学・文芸・美 術に興味を持ち、同人誌を主宰する。1928年に母を亡くし、 この頃より独学で油絵を描くようになる。1933年同校を 卒業し、4月から九戸郡軽米尋常小学校に勤務。1931年 に盛岡で開催された第1回全岩手県美術展に出品。1933 年第3回独立美術協会展に《植木屋》が初入選。1938年 第8回展での《孫作沼》の入選、以後は白日会などにも 出品するようになる。1943年には第13回独立美術賞を受 賞。1963年の第31回まで毎年出品するが、1969年に退 会。版画関係は青森の佐藤米次郎が発行した『趣味の蔵 書票集』第2回(1937.8)に木版画の蔵書票《緑瑤清爽善 孩女》、リノリューム版《無題》を発表する。1937年2月 16日付の岩手日報文芸欄に「教官記」を執筆したが、こ の内容が波紋を呼び、教職を追われる事由となる。高橋 はこれを契機に盛岡を離れることを決心し、世話になっ た人々へ記念品として詩集『蟻』を自費出版。4月には版 画集『版心』第二集、12月には『版心』第三集を出版。 10月に盛岡で「高橋忠弥絵画抄展」(味のデパート多賀 10.30~11.14) を開催したのに合わせて、『銀河鉄道』(版 画 3 点 随筆 2 点 限定 150 部)を出版する。翌 1938 年 8月盛岡市中野小学校を退職。9月に上京し、渋谷区千駄ヶ 谷町に住まいを移す。この頃から同郷の松本俊介や澤田 哲郎との交友が始まる。1941 年雑誌『改造』特派員とし て中国に渡り、翌年には中国の「江蘇日報」の客員とな る。1944年中国から帰国。戦後は美術団体連合展、日本 国際美術展などの公募展や個展などで精力的に活動する。 そのほか、師範学校時代から手製の詩集や版画集などを 出版していたことから、上京後は、詩やエッセイ・技法 書などを執筆。また、昆虫や鳥のイラストは人気を集め、 グラフィックデザイナーとしても仕事が増え、挿絵やブッ クデザインでも活躍した。著書に『西洋絵画の話』(角

川書店 1954)、『高橋忠弥随筆選集』(ビーイー K.K. 1990) などがある。2001 (平成 13) 年 1 月 24 日逝去。【文献】『緑の樹の下の夢―青森県創作版画家たちの青春展』 図録 (青森県立郷土館 2001) / 藤富康子「筆禍事件」『月と車 高橋忠弥の世界』(あざみ書房 2007) / 『詩情の楽園 高橋忠弥の世界』展図録 (萬鉄五郎記念美術館 2007) / 『版画堂』目録 99 (2013.3) (加治)

#### 高橋長幸 (たかはし・ちょうこう)

長野県師範学校一部5年に在学中、同校生徒による版画誌『樹氷』第1号(1938)に《寮門》を発表。【文献】『樹氷』1 (加治)

## 高橋十二 (たかはし・とうじ)

長野県下水内郡の小学校教師の集まりであった下水内郡手工研究会が発行した版画誌『葵』第2号(1935)賀状号に《朝陽》を発表。【文献】『創作版画誌の系譜』(加治)

## 高橋 徹(たかはし・とおる)

大分の武藤完一が発行した版画誌『九州版画』第24号 (1941.12) に掲載の会員名簿に名前があるも、版画作品は 掲載されていない。当時、大分県西国東郡呉崎校に所属。 【文献】『九州版画』24 (加治)

# 高橋松亭/弘明(たかはし・しょうてい/ひろあき)

 $1871 \sim 1945$ 

1871(明治4)年1月2日浅草向柳原町(現·台東区浅草橋) に生まれる。本名松本勝太郎。父松本正泰の兄で日本画 家松本楓湖に就き、9歳頃から日本画を学ぶ。高橋家の 養子となる。松本姓に関連する「松亭 | 号は、伯父で師 匠の楓湖が与えたと考えられる。15・16歳頃から宮内省 外事課勤務、宮中使用道具類や外国勲章の写生、役人の 通常服や大礼服の改正用スタイル画を制作する。1889年 頃から十数年間、教科書・雑誌・新聞等の挿絵を描く。 1895~97年保勳会『奉公偉績畫巻』で広く名を知られる ようになる。その後、古錦繪商前羽商店で浮世絵複製版 画制作の線書き・色差しに携わる。ここで1906年夏「尚 美堂」を開店した渡邊庄三郎と知り合い、その浮世絵複 製版画に代るオリジナル「新作版画」制作で彫師近松於 莵寿、摺師斧由太郎と共に絵師として関わり、1907年春、 輸出用に日本的特徴を強調した山水人物等を三切判版画 として試作、最初の作品「墨田堤の夜」他、約10図を制 作した。庄三郎はこれらを外国人が集まる避暑地軽井沢 の松本骨董店で反応をみるために試し売りをするが、意 外な程の売行きで庄三郎をにっこりさせたという。以後、 松亭は関東大震災までに大小500図以上を制作し、この なかには「佳恵 | 号で制作した作品もある。「新作版画 | の成功は版元渡邊庄三郎の経済的基盤を確立し、庄三郎 の目指した新版画制作に必要な資金調達にも貢献、「新作 版画」の成功あって新版画が誕生したともいえる。1921年、 当時病気がちであった自身の健康を祈念して「弘明」と 改号、その後も海外で知られた「松亭」を併用。1921~ 22 年新版画『都南八景』『雪月花』制作。関東大震災の約 半年後、庄三郎は彫師・摺師を呼び寄せ、震災前の「新 作版画」を弘明等に描き直させて再版し輸出、版元の再 建を進めた。そのため松亭版画には同じ絵柄で微妙に異 なる震災前と後の作品が存在することになった。再版作 品では無題作品に題名を付け、摺色は渋さより華やかさ が強調されるようになり、画風は明快率直化するなどの

変化がみられる。これら作品の売行きが好調であったこ とに眼を付け、松亭版画の贋作を「華月」「北斎」「明雪」 などの号で制作した版元に対し、庄三郎が訴訟を起こし ている。昭和に入ると版元学水画房で富士山、日光の風 景画と裸婦・猫などの新版画を制作、江戸時代浮世絵の 複製版画制作監督もする (1929~32頃)。タナカ版(尚 美堂、田中尚美堂、東京尚美堂とも) で三切判、はがき 判、ミニチュア判を多数制作(1930~40頃)。版元美術 社で『新興版画 短冊十二ヶ月』出版。なお松亭は版画 制作の最盛期、明治末期~大正初期頃から昭和初期(1931 年は大田区東矢口に居住)まで市野倉(現・東京都大田 区中央五丁目) に居住、1922年『都南八景』《市の倉》や 1927~35年「市ノ倉弘明画房」に描かれている茅葺屋根 の家はアトリエとして使われ毎日版下絵を描いていたと いう。1945 (昭和20) 年2月11日上神明町 (東京都品川 区)で風邪をこじらせ肺炎を併発し逝去。墓所は寿松院(台 東区鳥越二丁目13番所在)。【文献】清水久男「高橋松亭(弘 明)」『浮世絵芸術』149(国際浮世絵学会 2005) (清水)

## 高橋 守(たかはし・まもる) 1914 ~ 1998

1914 (大正3) 年栃木県大田原町 (現・大田原市) 鹿畑 に生まれる。6歳のときに宇都宮に転居。1927年川上澄 生が英語教師をしていた栃木県立宇都宮中学校(現・県 立宇都宮高等学校)に入学。在学中は美術サークル[パレッ ト会」に所属し、油彩画や水彩画を制作。1928年川上先 生の版画ほしさに同校生徒の長谷川勝四郎らが中心とな り版画誌『刀』(1928~1932)を創刊。「パレット会」に は川上の実弟成多がおり、版画家としての川上澄生を認 識していたと考えられ、「パレット会」会員の多くがこの 版画誌『刀』に参加した。高橋もそのひとりで、1931年 に同校を卒業するまで、同人の中で一番長く関わり、創 刊号から12号(1928~1931)まで発表を続けた。その 第1輯(1928)に《風景》、第2輯(1928)に《海辺》、 第3輯(1928)に《静物》、第4輯(1929)に《海岸風 景》、第5輯(1929)に《風景》、第6輯(1929)に《静 物》、第7輯(1930)に《洋燈》、第8輯(1930)に《風景》、 第9輯(1930)に《日立鉱山》、第10輯(1931)に《古 い幻燈機》、第11輯(1931)に《白樺》、第12輯(1931) に《日光風景》を発表。また在学中から創作版画に関心 を持ち、作品を収集するなど興味を示した。卒業後は桐 生工業専門学校(現・群馬大学工学部)に入学し、そこ で木版を用いた図案画を多数制作している。戦後は鹿沼 市で中学校の理科、数学の教師を勤める傍ら、油彩画、 水彩画のほかに、川上澄生が会長を務める「鈍刀会」に 所属し、生涯版画を制作。1961年頃からはガラス絵も始 めている。実父の高橋市次郎は宇都宮中学校教師で、守 の影響からか版画誌『刀』やその後再刊された版画誌『再 刊 刀』(1940-1941) にも版画を発表している。【文献】『版 画をつづる夢―宇都宮に刻まれた創作版画運動の軌跡―』 展図録(字都宮美術館 2000)/『創作版画誌の系譜(加治)

## 高橋友鳳子(たかはし・ゆうほうし) 1899 ~ 1996

1899 (明治 32) 年秋田県雄勝郡西成瀬村 (現・増田地区) 菅生に生まれる。本名は友蔵 (ともぞう)。1915 年から 1943 年までは西成瀬村吉乃鉱業所に勤務し、退職後は東京都電源工業社に入社。1945 年の終戦時に帰郷。1947 年西成瀬村村長を 2 期、1955 年町村合併にともない、1956 年より増田町教育長を 1972 年まで務める。1996 (平成 8) 年逝去。若いころより俳句を安藤和風・石井露月に、和

歌を若山牧水に学び、「アララギ」に所属。特に俳句では 俳人協会、俳文学会の同人となり、県内外で名が知られた。 これら、地域の文化活動に対して、文部大臣表彰、県芸 術文化賞が授与された。また、蔵書家としても知られ俳 文学・豆本・民俗学類の蔵書には稀覯本も多い。秋田県 豆本の会会長も務めた。また、蔵書票にも関心を寄せ、 青森の佐藤米次郎が夢人社から発行した『サトー・ヨネ ジロー蔵書票集』[第3年] 1 春の集 (1936.5) に蔵書票 の《紋章》を発表。その後、『趣味の蔵書票集』(夢人社 発行) 第1回(1936.9) に《自画像》、第2回(1937.8) に《草 花》を発表する。佐藤米次郎は当時朝鮮仁川に渡っていて、 京城府の三越ホール(1941年10月16~19日)で開催 した蔵書票展覧会は、小品版画展覧会でもあり、高橋の 作品も平塚運一など現代版画家の作品と共に展示された。 日本版画奉公会会員(1943.8)。著書には『句集 落穂』(書 物展望社 1941)、『友鳳子定本句集』(高橋友蔵 私家版 1986) 等がある。【文献】佐藤米次郎「蔵書票展覧会を終 へて」『エッチング』108(1942.1)/『緑の樹の下の夢― 青森県創作版画家たちの青春展』図録(青森県立郷土館 2001) /ネット資料『豆本と書票の世界』(加治)

## 高橋義男 (たかはし・よしお)

東京の料治熊太が発行した版画誌『版芸術』第9号 (1932.12)全日本版画家年賀状百人集に年賀状を発表。【文献】『創作版画誌の系譜』 (加治)

# 高久弥太郎 (たかひさ・やたろう)

札幌の北海道帝国大学の学生やその仲間は、詩・版画・演劇の同人誌『さとぼろ』(1925~1929)を創刊。その第4号(1925.9)に《上代痴魚一図》を発表。第2巻4号[通巻10号](1926.5)の表紙絵、裏表紙、扉と第3巻1号[通巻11号](1926.7)の扉の彫りを担当する。【文献】『「さとぼろ」発見 大正昭和・札幌芸術雑誌にかけた夢 資料集』(北海道立文学館 2016)/『創作版画誌の系譜』(加治)

## 高見 学 (たかみ・まなぶ)

日本エッチング研究所の西田武雄はエッチング普及のため、毎年学校の夏休みを利用して教師や生徒のためのエッチング講習会を行った。1936年8月12·13日には福岡県若松市の田中博主催により、八幡市幼稚園にてエッチング講習会(講師:西田武雄)を開催。当時福岡県八幡高等女学校(現・福岡県立八幡中央高等学校)の教師であった高見も生徒と共に講習会に参加する。その時の作品は未確認だが、講習会についての感想を「エッチング雑感」と題し『エッチング』第47号(1936.9)に寄稿している。【文献】『エッチング』47 (加治)

## 高見澤遠治(たかみざわ・えんじ) 1890 ~ 1927

1890 (明治 23) 年 11 月 19 日日本橋横山町の裕福なメリヤス問屋の次男として生まれる。幼時から絵に長じ、慶応義塾普通部ではパレット倶楽部に所属。洋画を志して水彩画に熱中し、太平洋画会研究所にも通うが、家が傾く頃画業を断念。幼少より好み、収集もしていた錦絵の直しを生業とする。制作当時の紙を用いるなどして欠損を補い、古色も完璧に再現して名人と謳われたが、直しと知らずにフランク・ロイド・ライトが入手したことや、時に直しを逸脱して改作に及んだ事実が三原繁吉の入手した鈴木春信の作品から世に知れるなどして、贋作者と

みなされ、直しから手を引き、1918年頃より複製に転向 する。同年弟の上村益郎と吉田幸三郎を世話役にして浮 世絵保存刊行会を企画、当時市場から消えつつあった優 品を今に伝えるものとして好評を得た。複製においても 古色を忠実に再現するという立場をとり、偽作との境界 線はあいまいだが、原画よりも美しい複製として支持す る人も多かった。そのひとりが親交のあった岸田劉生で ある。また劉生にとって遠治は、浮世絵や歌舞伎、小唄 といった江戸趣味への導き手としても重要である。関東 大震災後は大阪へ移り、主にだるま屋を版元に仕事を続 けた。1925年に松方コレクションの浮世絵複製を岩波書 店から刊行する大きな企画が持ちあがるが、結核を発症 して断念。翌年鎌倉へ移り、1927(昭和2)年6月11日 鎌倉市にて逝去。遠治の複製技術はふたりの弟、上村益 郎と高見澤忠雄に受け継がれ、ふたりは遠治の没後「高 見澤木版社」を立ち上げた。また、従弟には高見澤仲太 郎(路直・田河水泡)がいる。【文献】高見澤たか子『あ る浮世絵師の遺産-高見澤遠治おぼえ書-』(東京書籍 1978) / [[巻頭特集] 古画を愛したふたり 劉生の摂取 遠治の再生」『芸術倶楽部』Vol.27 (1998.7-8) / 高見沢た か子「浮世絵複製の天才高見沢遠治のこと」『芸術新潮』 45-6 (1994.6) (西山)

## 高見沢路直(たかみざわ・みちなお) $1899\sim1989$

1899 (明治32) 年2月10日東京府東京市本所区本所 (現・東京都墨田区立川) に生まれる。本名は仲太郎。出 生直後に母が死亡、父が再婚したために伯母夫婦に育て られた。尋常小学校卒業後は薬屋やメリヤス屋で奉公す る。1917年頃、浮世絵の複製版画の仕事をはじめた従兄 の高見沢遠治の頒布会の仕事を手伝った、さらに遠治か ら絵具道具一式を買ってもらったとされる。1918年徴兵 検査に合格し入営、その後朝鮮や満洲で軍隊生活を送り、 1921年12月除隊。1922年10月開催の三科インデペンデ ント展に出品し、大正期新興美術運動に参入した。1923 年8月の住谷磐根作品をめぐる「二科落選移動展」(詳細 は住谷磐根の項を参照) に、マヴォのメンバーとして参 加したと回想している。同年11月、東京のカフェやレス トランなど20か所ほどで同時開催したマヴォ第2回展に 出品。1924年には、4月にマヴォ同人として帝都復興創 案展に、6月に、喫茶店鈴蘭で前月からスタートした一人 10日間程度のリレー形式の展覧会「マヴォ意識的構成主 義的連続展」に、12月に画廊九段で開催の「マヴォ作品展」 に出品したほか、9月にカフェーどんたくで「マヴォ意識 的構成主義展覧会高見沢路直個人展」を開催して、前衛 作品を盛んに発表した。その一方で、6月開催の帝大基督 教青年会館でのチエルテルの会で「サウンド・コンスト ラクター によるパフォーマンスを演じ、さらに7月創 刊の『マヴォ』誌第3号掲載写真のための裸体や女装に よるパフォーマンスを演じた。また、同誌には構成物の 図版や詩のほかリノカットによる版画(2号、7号[1925] 年])、コラージュ (3号)、スタンプ・ドローイング (4 号)を掲載し、さらにリノカットを収めた「マヴォ・グ ラフィーク」を発行して紙上の仕事でも前衛作品を果敢 に発表した。このうち第3号掲載のコラージュは火薬を 使用したもので、この作品が原因でこの号は発禁処分を 受けた。1925年には4月開催の「第2回無選首都展」や 9月開催の同第3回展、三科第2回展(公募展)に出品し た。三科が解散(1925.9)し、村山知義がマヴォを脱退し て新興美術運動の熱が急速に冷めた後も岡田龍夫らとマ

ヴォをなのり、1926年5月の横井弘三主宰「理想大展覧 会」に出品したり、9月開催の大阪での「築地小劇場マヴォ 作品舞台模型 映画セット展覧会」に出品したりした。ま た同月京都で催された「マヴォ創作舞踊発表会」でダン スを演じた。1927年に日本美術学校図案科を卒業(卒業 生名簿による。入学は1922年とされるが未確認)。その後、 新作落語の作家として活躍中に高見沢をもじった「田川 水泡」(たかみざわ)の名で漫画の執筆に取り掛かり、ま もなく「のらくろ」の田河水泡として大活躍した。戦後、 1951年より関野進一郎に学んでエッチングを多数制作し た。妻は小林秀雄の妹・潤子。弟子の漫画家に長谷川町 子や杉浦茂などがいる。1989 (平成元) 年12月12日逝去。 【文献】『追悼 田河水泡展図録』(町田市立国際版画美術館 1990) / 『のらくろ 田河水泡―生誕百年記念展図録』(町 田市立博物館 1999) / 『大正期新興美術資料集成』(国 書刊行会 2006) / 『滑稽とペーソス 田河水泡 "のらくろ" 一代記展図録』(町田市民文学館ことばらんど 2013) (滝沢)

## 高村眞夫(たかむら・まさお/しんぷ) $1876\sim1954$

1876 (明治9) 年8月18日新潟県長岡に生まれる。本 名正男。1899年上京して小山正太郎の不同舎に入門。 1902年太平洋画会の創立に参加し、以降は太平洋画会の 中心画家の一人として活躍。また1907年東京府勧業博覧 会に出品した《黄檗の僧》が3等賞受賞。第1回文展(1907) の《画室の沈黙》、第2回文展(1908)の《夏の椽》、第3 回文展(1909)の《停車場の夜》が連続して3等賞を受 賞する。1914年から1916年まで渡欧。帰国後は太平洋画 会研究所で後進の育成にあたる(後に「太平洋美術学校」 と改称)。1928年帝展無鑑査となる。『洋画講義 肖像画 講義』(日本美術学院 1900)、『西洋画の描き方』(日進 堂書店 1919)、『欧州美術巡礼記』(博文館 1917) など の著書や不同舎旧友会記念事業として1934年刊行の『小 山正太郎先生』では中心となって編集に関わった。1954 (昭和29) 年11月21日長岡で逝去。版画については、太 平洋画会の仲間たちとの写生旅行の成果をまとめた『瀬 戸内海写生旅行』(興文社 1911)、『十人写生旅行』(興 文社 1911) の挿絵、太平洋画会内に設置された日本新 版画協会が1936年に刊行した『新時代版画集 前輯・後 輯』(石川寅治・吉田博ら全12図)の『後輯』に木版画《京 の舞妓》1図を制作。その他に『中央美術』第5巻第3 号(1919.3.1)に「日本創作版画協会展覧会評 木版、石 版、エッチング」の寄稿などがある。【文献】『もうひと つの明治美術 - 明治美術会から太平洋画会へ』展図録(静 岡県立美術館ほか 2003) / 『日本の版画 IV 1931-1940』 展図録(千葉市美術館 2004) (樋口)

# 高村豊周(たかむら・とよちか) $1890\sim1973$

1890 (明治 23) 年7月1日高村光雲の三男として東京に生まれる。高村光太郎は長兄。1908年父のすすめで当時東京美術学校助教授だった津田信夫の弟子となる。翌1909年美校鋳金科に入学するが、授業に疑問をもち独自に研究を進めた。1914年津田信夫・香取秀真・山本安曇らと「青壺会」を結成。1915年美校鋳造科を卒業、この年美校卒業生らと「黒耀社」を結成した。1919年岡田三郎助・長原孝太郎・藤井達吉らと装飾美術家協会を結成、実用性と芸術性をあわせ持つ工芸を求めて制作した。1921年第9回農展に出品し宮内省買上げとなった。1922年工芸普及を目的に渡辺素舟らと『工芸通信』を創刊し、

編集を手がける。1926年には帝展工芸部新設運動の一環 として「日本工芸美術会」を結成、檄文を書いた。また この年、内藤春治・北原千鹿・山崎覚太郎・広川松五郎 らと「无型」を結成し、新しい工芸運動の拠点とした。 1927年の第8回帝展で工芸部が設置されて出品、特選を 受賞。その後、第9回展・第10回展で連続して特選を受 賞した。1935年帝展の工芸の在り方に不満を感じ、「用即 美」を掲げて「実在工芸美術会」を結成した。1938年よ り1940年にかけて朝鮮や満洲をたびたび訪れた。さらに 1940年から翌年にかけて、メキシコとアメリカを訪問し た。戦後は日展に出品し、審査員や理事などを歴任した。 1964年には重要無形文化財技術保持者となった。版画の 仕事は少ないが、1927年に无型が創刊したパンフレット 『无型』の第4号・第6号(共に1928年発行)の表紙を 幾何学的図案の木版画で飾っていることが知られる。ま た、『中央美術』8巻1号 (1922.1) の表紙を、壺の図案 の木版画で飾っている。東京美術学校在学中に与謝野鉄 幹・晶子に師事して短歌を学び、生前『露光集』や『歌 ぶくろ』などの歌集を発行した。1973 (昭和48) 年6月 2日逝去。【文献】高村豊周『自画像』(中央公論美術出版 1968) / 『生誕 110 年記念 広川松五郎・高村豊周展図録』 (新潟県立近代美術館 2000) (滝沢)

## 高森捷三(たかもり・かつぞう) 1908 ~ 1977

1908 (明治41) 年2月22日石川県鳳至郡輪島町に生ま れる。元一水会会員。1925年画家を志し上京、林重義に 師事する。翌1926年の第13回二科展に《風景》2点が初 入選。以後、1929年の第16回展まで連続出品した他、日 本水彩画会展や中央美術展(1927・1929)にも出品。また、 1928年には「1930年協会洋画研究所」に入り、同協会が 主催する第4回展(1929)と第5回展(1930)に出品し たが、1930年には日本美プロレタリア美術家同盟に参加。 同年の第3回展に油彩画《被告会議》《工場風景》など6点、 翌1931年の第4回展にも油彩画《東セルの兄弟しつかり やろう》を出品したが、第3回展の《被告会議》は撤回となっ た。1932年に日本共産党員になるも、同年検挙され1934 年出獄。1936年に再び二科展(第23回展)に出品したが、 翌 1937 年からは新結成された「一水会」に出品するよう になり、同年の第1回展から1939年の第3回展、1941年 の第5回展に入選した。戦後は、1946年に同志と「現実会」 を組織したが、1948年解散。1950年から再び一水会展に 出品するようになり、1951年の第13回展で会員となるも、 1968年頃に退会した。なお、高森の版画作品は未見であ るが、小野忠重は「昭和四年から七年までプロレタリア 美術運動に参加。この頃木版作品がある」(『原色 浮世 絵第百科事典 第十巻』)とし、作品例に《街上労働》(1930) を挙げている。1977 (昭和52) 年3月21日東京で逝去し た。【文献】小野忠重「たかもり・しょうぞう 高森捷三」 『原色 浮世絵第百科事典 第十巻』(大修館書店 1981) /『日本美術年鑑』昭和53年版(東京国立文化財研究所 1980) / 『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文 化財研究所 2006) (三木)

# 高安やす子(たかやす・やすこ) $1883\sim1969$

1883 (明治 16) 年8月1日岡山の医師清野勇の次女に 生まれる。幼時、大阪に移住し、堂島高女を卒業。大阪 市東区道修町の高安病院院長・高安道成に嫁す。子息は 歌人の高安国世。道成の兄は文学者の高安月郊。やす子 は月郊の影響を受けて文学に親しみ、竹柏会を経て、与

謝野鉄幹、晶子に師事し、やす子を中心とした大阪の上 流夫人・令嬢等によって紫絃社を結成、才媛の関西女流 歌人として存在する。小林天眠(政治)と共に、与謝野 夫妻の大阪での有力な後援者である。1921年には、与謝 野鉄幹が序文を寄せた歌集『内に聴く』を、長谷川巳之 吉の第一書房の前身である玄文社詩歌部から刊行する。 日夏耿之助の『転身の頌』を意識した装幀で、その見返 し及び口絵に自刻木版《海》《森の藤》と題した初々しい 版画、油絵・素描を掲載している。書名は巻頭に配した「火 の如き花限りなく聞く音つねに/われ聴くわが内に聴く」 と詠んだ明星派風の短歌による。その後、斎藤茂吉に師 事し、「アララギ」同人となり、1941年『樹下』(アララ ギ叢書 95) を刊行。1969(昭和 44)年に芦屋で逝去。【文献】 「大阪出身の新人物」(『現代』第5巻3号、1904)、日本 近代文学館編『日本近代文学大事典』第2卷(講談社 1977) (森)

#### **鷹山宇一**(たかやま・ういち)1908 ~ 1999

1908 (明治 41) 年 12 月 10 日青森県上北郡七戸町に生 まれる。1922年に旧制青森中学校に入学し、翌年棟方志功・ 松木満史らが結成した「青光画社」に参加して絵を描き 始めた。1927年中学校を卒業して上京、川端画学校に入 学した。しかしこの年の9月に日本美術学校洋画科に編 入学し、1930年に卒業した。その間、1928年の日本創作 版画協会第8回展に木版画《魚》を、同年の1930年協会 第3回展に版画と思しき《街景》と《角の食料品店》を、 1929年開催の日本美術学校生徒習作展覧会に版画3点を、 1930年1月の白日会第7回展に《プロフエール》《都会風 景 A》《都会風景 B》(いずれも版画)を出品して、在学 中から版画制作への積極的な姿勢を見せた。また、1930 年1月開催の1930年協会第5回展に《鉄工場》を、同年 2月の光風会第17回展に《坂下の家具店》を出品している。 学校卒業後は、1930年9月開催の二科第17回展で《風景 を配せる静物》《都会風景》の2点の木版画が入選したの を皮切りに、以後1937年の24回展まで毎回二科展に出 品した。このうち 1931 年の第 18 回展には《ラリユヌサ ンボルエ》《街ノ上》《風景を配せる静物》《風景と鳥》の 4点の木版画を出品し、石井柏亭に「注目すべきものだ」 との評価を受けた(『美之国』7-10)。それ以外の二科出品 作も版画が多かったと推定できる。1933年の日本版画協 会第8回展にも会員として《清教徒の逃避》《美はしき天 文学者の錯誤》《月光の廃碑》《月の形象》《静かなる祭典》 を出品している。二科に初入選した1930年頃からシュル レアリスムに学んでマックス・エルンストの表現方法を 研究、1933年に二科の新傾向の表現を志向する若手作家 らとグループ「新油絵」を結成し、その第1回展を資生 堂で開催した。1939年、同じく二科の急進的作品を制作 する若手作家のグループ、九室会の第1回展に《作品 A》《作 品 B》《作品 C》を出品した。その後 1940 年の美術文化協 会第1回展に《日高川〔民族ノ移動ノ内(情炎)〕》を出品し、 以後、1943年開催の第4回展を除いて1944年の第5回展 まで毎回出品した。1942年には新版画会のメンバーとし て3点の木版画をこの会の展覧会に出品した。青森で発 行された版画誌『陸奥駒』(1933~1935) にもしばしば 版画を寄せた。戦後は二科に復帰、木版画から油彩画の 制作へと転じた。1961年に二科の理事となった。1990年 に七戸町名誉町民となり、1994年には七戸町立鷹山宇一 記念美術館が開館した。1999 (平成11) 年10月25日東 京で逝去。【文献】『鷹山宇一画集』(七戸町立鷹山宇一記 念館 1997) / 『日本美術年鑑 平成 12 年度版』(東京国立文化財研究所 2002) (滝沢)

## 田川 憲(たがわ・けん) 1906 ~ 1967

1906(明治39)年長崎市桜馬町に生まれる。本名は憲一。 1924年3月に長崎市立商業学校を卒業。1926年に画家を 志し上京、宮内省主馬寮に勤める。翌 1927 年に恩地孝四 郎を知り版画制作を開始する。翌1928年川端画学校に入 学しデッサン、油絵を学ぶ。しばらくは帰郷・上京を繰 り返し、1933年長崎に戻る。翌1934年2月に『詩と版 画』が創刊され参加する(「詩と版画の会」発行 編集兼 発行:内堀周通)。その後「版画長崎の会」を設立。4月 『詩と版画』誌を『版画長崎』と改題し、編集兼発行者と なり、「版画長崎の会」より発行する。7月、「版画長崎の 会|主催による「平塚運一氏作品並長崎版画及古代名作 版画展覧會」を長崎県立図書館で開催すると共に、平塚 運一を講師として迎え、版画講座を磨屋小学校でおこな う (本講座は翌1935年にも開催する)。この年、田川は 積極的に版画普及活動に取り組み、長崎に創作版画運動 定着の基礎が作られた。創作活動に於いても、9月には第 1回版画集『新板長崎風景』をぐろりあ書房より刊行する。 さらに同年には「第1回版画個展」を開催する。1935年 第4回日本版画協会展や第10回国画会展に初出品をす る。1941年に日本版画協会会員に推挙される。同年上海 に居住する。この頃より「憲」と号す。同年4月に版画 の個人雑誌『田川憲・木刻小報 龍』を刊行し、日本の 創作版画を紹介する。次いで「上海版画協会」を設立(5 月20日) し、版画講習会を開催する。また「版画研究所」 の設立に参画し、事務所を北四川路に置く。本事務所は「上 海版画協会」も共同使用とする。同年9月に中日文化協 会が主催する版画講習会に講師として参加する他、1942 年4月に日本版画協会上海展の開催に尽力する。また同 年12月に創刊された『中国木刻』(中国木刻作者協会発行) に「木刻座右銘(一)」を寄稿する。1945年に帰国するま での間、上海などに於いて、日本の創作版画の普及活動 を積極的に努めると同時に『華中風物六景』《杭州西湖》 《蘇州虎邱》等々の作品を制作する。帰国後、『海洋版画譜』 を制作する。1949年『浦上原爆遺跡』を刊行。1952年第 2回版画集『長崎詩帖』を刊行する。1956年長崎県より 功労章を受章し、1960年長崎新聞社第1回文化賞を受賞 する。1967 (昭和42) 年3月16日\*\*で逝去。作品は一 貫して長崎の風景・風物を描き続け、それと共に、長崎 の版画界の礎を築いた版画家である。【文献】『日本版画 協会会報』35(1932) /阿野露団『長崎を描いた画家た ち (下)』(形文社 1988) /阿野露団『長崎の肖像』(形 文社 1995) / 『創作版画誌の系譜』 (河野)

## 田河水泡 (たがわ・すいほう)

→高見澤路直(たかみざわ・みちなお)

#### 瀧 栄 (たき・さかえ) 1914 ~ 1980

1914 (大正 3) 年茨城県に生まれる。1915 年宇都宮市 大寛町に転居。1927 年川上澄生が英語教師をしていた栃 木県立宇都宮中学校(現・県立宇都宮高等学校)に入学。 在学中は美術サークル「パレット会」に所属し、上級生 時には部長も務め、油彩画を多数制作する。そのほか、 柔道部・バスケット部でも部長を努め、文武両道で中学 時代を過ごし、特に美術と文学に熱中する。版画関係では、 1928 年に川上先生の版画ほしさから同校生徒の長谷川勝 三郎らが創刊した版画誌『刀』(1928 ~ 1932)の第2輯から作品を発表する。第2輯(1928)に《船》、第3輯(1928)に《林檎》、第4輯(1929)に《賀状》、第5輯(1929)に《真夏》、第6輯(1929)に《無題》、第7輯(1930)に《彩色人》、第8輯(1930)に《風景》、第9輯(1930)に《田川風景》、第10輯(1931)に《静物》、第11輯(1931)に《窓際ノ木》、第12輯(1931)に《静物》、第11輯(1931)に《窓際ノ木》、第12輯(1931)に《大》を発表。特に一年先輩の佐伯留守夫が卒業した後の第11輯(1931)、12輯(1931)は実質責任編集者となり、『刀』の継続発行に貢献する。1933年から栃木県庁に勤める。1938年には応召され、終戦の翌1946年に復員。1980(昭和55)年逝去。生涯、版画や油彩画の制作を続けていて、彫刻刀は日本刀や刃物等を利用した手製のものを使用した。【文献】『版画をつづる夢-宇都宮に刻まれた創作版画運動の軌跡-』展図録(宇都宮美術館 2000)/『創作版画誌の系譜』(加治)

## 瀧 秋方(たき・しゅうほう) 1902 ~ 1979

1902 (明治35) 年島根県広瀬町に生まれる。本名甚一、 「穐方」とも号す。13歳の頃に水彩画を始め、上京して一 時期鏑木清方門下生となる。その後は川端画学校で学び、 東京美術学校日本画科を卒業。池田仲博侯爵の後援を得、 一時期東京の新聞社に働くが、朝鮮美術への関心から職 を辞して朝鮮へ渡り、1923年から1927年にかけて韓国・ 満州・中国・インドを旅する。4年ほどで帰国し、京都 その後大阪に移り住む。1931年から1938年まで大阪毎 日新聞社絵画嘱託の仕事に携わる。1937年津田青楓・矢 野橋村らによって設立された墨人会倶楽部の会員となり、 1939年小杉放菴・渡辺大虚らと圏外社を主宰。戦後は中 央画壇を離れ、岐阜県に移り住む。昭和30年代に奥の細 道のスケッチをまとめた『奥の細道・車の旅 瀧秋方ス ケッチ集』(日研出版 1964) を出版。1979 (昭和54) 年 4月16日名古屋市内の病院で逝去した。版画は、1936年 に大阪の日月書院から刊行の木版画集『近代麗人画譜』《浅 春》《明眸》《港の日本娘》《燭影》4点と《涼》《〔豊頬〕》 (ローマ字タイトルでは「Hokyo」) 合わせて6点が知られ る。なお、『近代麗人画譜』の制作は、当時大阪在住の米 国人ランバートとジャパンタイムス社の新渡戸氏の二人 の発案で日月書院から刊行されたもので、1935年9月29 日付ジャパンタイムス日曜版には、瀧秋方の紹介記事及 び上記6点の木版画が図版入りで紹介されている。また、 ランバートの尽力で同年10月にはアメリカのインデアナ 州博物館でも展観され好評を博したと伝えられる。【文献】 [SHUFO TAKI, PORTRYER OF THE MODERN WOMAN、PRESENTS HIS UKIYOE WORKS」『ジャ パンタイムス 1935.9.29 日曜版』/『日本美術年鑑』昭 和55年版(東京国立文化財研究所 1982) / 「描かれた 奥の細道~『奥の細道 車の旅 瀧秋方スケッチ集』原画展 ~」パンフレット(岐阜県池田町・土川商店 「場所かさじゅ う」2013.7.20 ~ 7.31) (樋口)

#### 多木透哉 (たき・とうさい)

1922 (大正 11) 年の神戸弦月画会主催の創作版画展 (2. 23~26 神戸・三宮三○九番館) に木版画《へんな顔》を出品。出品時は神戸に住む。その後、1933 年の第 20 回二科展に油彩画《雑花》が入選。以後、1943 年の第 30 回展まで連続して油彩画を出品した。【文献】『神戸弦月画会主催創作版画展目録』(1922) / 『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研究所 2006) (三木)

## 瀧川七郎 (たきがわ・しちろう)

日本エッチング研究所の西田武雄はエッチング普及のため、毎年学校の夏休みを利用してエッチング講習会を行った。1936年8月8・9日の2日間、関西小国民社に於いて開催された京都エッチング協会主催によるエッチング講習会(幹事:中井平三郎 講師:西田武雄)に参加。一人2枚の作品を制作。この時の作品と見られるアザミのエッチングが研究所機関誌『エッチング』第50号(1936.12)に掲載されている。この講習会の出席者には洋画家の須田国太郎や北脇昇も名を連ねていて、翌1937年8月7・8日開催の京都講習会(関西小国民社)にも北脇や小牧源太郎らと共に参加している。【文献】西田武雄「エッチング講習旅行記(3)」『エッチング』60(1937.10)/『エッチング』47・50・58 (加治)

#### 滝川太郎(たきがわ・たろう) 1903 ∼ 1970

1903 (明治36) 年3月25日長野県松本に生まれる。 1917年開智小学校高等科を卒業。1920年上京し、太平洋 画会研究所に学ぶ。同年石井柏亭の書生となり、1921年 からは石井の教える文化学院(同年4月創立)の図書館 にも勤める。1925年応召。1927年に除隊し、同年の第14 回二科展に油彩画《瞰望夏景》が初入選。以後、1930年 の第17回展まで連続して出品。また、1928・1929年の中 央美術展(第8.9回)などにも入選した。1930年渡欧(12 月東京発、翌年1月パリ着)。パリに住み、1932年スイス のジュネーブに移る。滞欧中も1933年から1935年の二 科展 (第20~22回展)、1937年の第1回一水会展に出品 した他、1936年には日本版画協会がジュネーブで開催し た「日本の古版画と日本現代版画展」(ジュネーブ市博物 館)に特別加入会員として参加。木版画《Paysage de Florence》を出品したが、この作品は現在知られている《フ ローレンス郊外風景》(1933)の可能性が高い。1940年 帰国。帰国後は1940年から1943年の一水会展(第4~ 7回展) に出品。1940年の紀元 2600年奉祝美術展、1941 年の第4回新文展にも入選した。また、『ヱッチング』第 95・97・98号 (1940.11・1941.1~2) に「巴里十年」を 寄稿。俳句も能くし、1944年には『玄鹿軒発句集』(兜屋 画廊)を刊行。「太朗|「太郎左|「玄鹿子|などとも名乗っ た。戦後は、1946年の第8回一水会展に出品。会員とな り、翌1947年には選出鑑別委員を務め、1970年の第32 回展まで出品した。1970 (昭和45) 年12月21日神奈川 県逗子市で逝去。翌年の第33回一水会展に遺作2点が並 んだ。なお、滝川には、滞欧中や帰国後に滝川自身が描 いたとされる所謂「滝川製ヨーロッパ絵画」の問題があ る。その経緯は作品の所有者でもあった久保貞次郎の「真 贋〈6〉滝川製ヨーロッパ絵画《体験的真贋論》」(『芸術 新潮』1964年6月号)に詳しいが、その中で贋作とされ ていたセザンヌの《デッサン》が1992年に丹尾安典によ り「真作ではないか」(「贋作の名誉挽回!? 滝川製セザ ンヌ | 『芸術新潮』 1992 年 2 月号) と指摘されるなど、未 解決の部分もある。また近年、久保論文への反論の書と もいえる遺族・滝川留未子による『画家滝川太郎』(遊人 工房 2005) が出版されている。【文献】 滝川留未子『画 家滝川太郎』(遊人工房 2005) / 『日本美術年鑑』昭和 47年版(東京国立文化財研究所 1973)/『日本版画協 会々報』7(1936.2)/『ESTAMPES JAPONAISES: ANCIENNES ET MODERNES』展図録(1936) /久 保貞次郎『久保貞次郎 美術の世界 11 絵画の真贋』(叢 文社 1984) / 『大正期美術展覧会出品目録』(東京文化 財研究所 2002) / 『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』 (東京文化財研究所 2006) (三木)

## 瀧口綾子(たきぐち・あやこ) 1911 ~ 1998

1911 (明治44) 年生まれ。瀧口修造夫人。旧姓は鈴木。 1934 (昭和9) 年4月の「新造型美術協会」の結成に参 加。翌1935年の第1回展(1.10~19 東京府美術館)に 油彩画《海のトルソー(A)》《海のトルソー(B)(アラ ビアンナイト墜落》など10点(か)を出品。同年12月、 瀧口修造(1903~1979)と結婚。1936年の第2回展(1.7 ~ 18 東京府美術館)には「鈴木綾子」の名で油彩画《風 景》《作品》を出品。第4回展への出品は不明だが、1937 年の第5回展(3.16~25 東京府美術館)には油彩画《ア リス》《作品》、《フォトデッサン》、瀧口修造との共作《デ カルコマニ》を出品。同年の『みづゑ』5月号(387)に《デ カルコマニイ》の図版2点が掲載された。翌1938(昭和 13)年の造型版画協会第2回展(4.29~5.9 東京府美術館) にも《デカルコマニイ》を出品。この出品について恩地 孝四郎は、「版画の新らしい分野を開拓する意志の下に結 成されてゐる此会は、取材にもだが、技法の上に大膽な 思ひ切つた遂行が成されてゐる」「版画の能力を拡大して 行く意心〔ママ〕は尊重すべきであり、相当に成果を既 に収めてゐる」とした上で、「ただ参考品ならいいがデカ ルコマニイの展列は疑問とする。之は作の素因とはなり 得ても「作品」ではないからである」(「展覧会評」『みづゑ』 400) と評している。その後、1939年5月の「美術文化協 会」の創立に参加。1940年の第1回展(4.11~19 東京 府美術館)に油彩画《蜃気楼》《休みの日》、1941年の小 品展(12.16~20 銀座·青樹社)に《小品》を出品したが、 次第に制作から離れたようである。1998(平成10)年東 京都で逝去。【文献】巖谷國士「瀧口綾子」(「瀧口修造小 事典 | のうち) 『封印された星 瀧口修造と日本のアーティ ストたち』(平凡社 2004) / 『造型版画協会第二回展目録』 (1938) / 恩地孝四郎「展覧会評」『みづゑ』 400 (1938.6) /『古沢岩見美術館月報 № 25 特集号 現代美術のパ イオニア展』(1977.6.10) / 『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研究所 2006) (三木)

## 瀧澤好一(たきざわ・こういち)

プロレタリア美術運動に参加し、1932(昭和 7)年の第 5回プロレタリア美術大展覧会(11. 18~27 東京自治 会館)に版画《スターリン》を出品。【文献】岡本唐貴・ 松山文雄編『日本プロレタリア美術史』(造形社 1967) / 『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(東京文化財研 究所 2006)(三木)

## 滝澤 茂 (たきざわ・しげる)

長野県須坂の信濃創作版画研究会が発行した版画誌 『櫟』第1号(1933.8)に《夏》を発表【文献】『創作版画 誌の系譜』(加治)

## 滝沢精一(たきざわ・せいいち)

長野県下水内郡の小学校教師の集まりであった下水内郡手工研究会が発行した版画誌『葵』の第1号(1934.9)に《バラ》、第2号(1935)賀状号に《猪》、第5号(1938.3)に《年賀状》《上木島》を発表。また、長野県須坂の信濃創作版画研究会が発行した版画誌『櫟』第2輯(1934)に《賀状》を発表している。なお、『葵』第5号は「瀧沢清一」の表記で発表されている。【文献】『須坂版画美術館 収

蔵品目録2 版画同人誌『櫟』『臥竜山風景版画集』(須坂版画美術館 1999) / 『創作版画誌の系譜』(加治)

## 滝沢英夫 (たきざわ・ひでお)

長野県下水内郡の小学校教師の集まりであった下水内郡手工研究会が発行した版画誌『葵』の第1号 (1934.9) に《月夜》を発表。【文献】『創作版画誌の系譜』 (加治)

## 瀧澤宗四郎 (たきざわ・むねしろう)

長野での創作版画は、1933 年に小林朝治が平塚運一を講師に招いて開催した「版画及び図画講習会」(須坂小学校)を契機として「信濃創作版画研究会」を立ち上げ、版画誌『櫟』(1933~1937)を発行したことに始まる。1934年8月19日から22日には「第2回版画及び図画講習会」(講師:平塚運一)が須坂小学校で開催され、瀧澤も参加。その時に制作された作品は『臥龍山風景版画集』(信濃創作版画研究会 1934)として出版され、瀧澤の木版画《観音口》も掲載されている。その後、信濃創作版画研究会が発行していた『櫟』に参加し、第4輯(1934.11)に《竜ヶ池風景》、第5輯(1935.4)賀状号に《賀状》、第8輯(1935.12)に《校内》、第9輯(1936.4)に《賀状》を発表した。【文献】『須坂版画美術館 収蔵品目録2 版画同人誌「櫟」「臥竜山風景版画集」」(須坂版画美術館1999)/『創作版画誌の系譜』(加治)

## **滝平二郎**(たきだいら・じろう) 1921 ~ 2009

1921 (大正 10) 年 4 月 1 日茨城県新治郡玉川村 (現在 の小美玉市) の農家に生まれる。県立石岡農学校在学中 に風刺漫画と出会い、若林一男の主宰する茨城漫画派集 団に参加、機関誌『漫画研究』を発行。1939年鈴木賢二 や飯野農夫也を知り、すすめられて木版画に専心。翌年 水戸市で開かれた第13回白牙会展に墨摺の《悪童と伝説》 を出品。同年版画集『里の歌』『悪童物語』を制作。はじ め霞ヶ浦の周辺で厳しい労働に従事する人々に多く取材 し、1942年第6回造型版画協会展に《わかさぎを穫る人々》 《わかさぎを待つ人々》《わかさぎを焼く人々》を発表す るも7月に応召、制作が中断。1945年沖縄で米軍の捕虜 となり翌年帰郷、鈴木賢二や新居広治に誘われてその年 のうちに「日本美術会」に参加し、中国木版の強い影響 下に版業を再開した。1947年鈴木賢二や飯野農夫也が創 刊した版画誌『刻画』の第1号に《母》を発表、自らも 玉川村で刻画晴耕会を立ち上げ、機関誌『刻画晴耕』を 版行した。同年12月の第1回日本アンデパンダン展(日 本美術会主催) に《難民》2点(あるいは《沖縄難民 A·B》) を出品、以後同展への発表を続ける。1948年「日本新版 画懇話会」に参加、また現代中日版画展に《難民 A》を出品。 1949年には「日本版画運動協会」設立に参加、機関誌『版 画運動』第1号に《若い農婦》を発表。同会が発行した『版 画運動通信』『日本版画新聞』の編集も手がけた。1950年 の第1回日本版画運動協会展に《牛の剪蹄日》などを出 品。1951年には秋田の花岡事件に取材した版画集『花岡 ものがたり』を新居広治・牧大介と合作、同年木版絵本 『裸の王さま』を私家版で刊行。この年にはさらに大田耕 士・新居広治・鈴木賢二と『版画四人集』を2集世にだ している。1954年に初の個展を水戸と日立で開催、翌年 上京した。1955年北京で開かれた日本木刻展覧会に出品、 千代田区立千代田図書館講堂における現代版画展に《農 婦》を出品。1957年西野辰吉の新聞連載小説「種子は蒔 かれた」の挿絵102回分を木版画で制作し、その後版画

をしばらく中断。1959年に集団・版第1回展に連作「汐」 4点を出品、再開後は箔を使用するなど造形を変化させ、 またこの頃から滝平調ともいうべき豪快かつ素朴な作風 を確立した。手法も初期の墨摺から多色摺へと展開し、 1960年前後には小野忠重を思わせる陰刻多色摺の作品も 発表している。1969年に第6回東京国際版画ビエンナー レ展へ大作《青い炎》《紅い炎》を招待出品、高評を得た。 1960年前後から中国の剪紙に着想を得た切り絵を試み、 木版に由来する黒を効果的に配した造形を模索、同時に 子供を題材にした制作を始める。1969年に朝日新聞家庭 欄での切り絵連載が始まって一躍人気作家となり、以後 切り絵に軸足を移した。本の仕事も多く1950年代後半か ら児童書の装幀や挿絵を多く手がけ、はじめはこの分野 でも木版を専らとしたが、やがて切り絵に移行。特に童 話作家斎藤隆介と組んだ名作絵本を次々に発表、代表作 に『ゆき』(1969年) や『モチモチの木』(1971年) など がある。2009(平成21)年5月16日千葉県流山市にて逝去。 【文献】『滝平二郎版画集』(河出書房新社 1977) /滝平 二郎 「版画浪人」 『版画藝術』 30 (1980.7) / 『野に叫ぶ人々 - 北関東の戦後版画運動』(栃木県立美術館 2000) / 『滝 平二郎展』(郡山市立美術館+福井市美術館 2013)(西山)

#### 田口省吾(たぐち・せいご) 1897 ~ 1943

1897 (明治30) 年5月秋田県角館に生まれる。父は評 論家・小説家で、後に中央美術社をおこす田口掬汀。子 息は小説家高井有一。葵橋洋画研究所に通い、1921年東 京美術学校西洋画科卒業。安井曽太郎に師事する。油彩 画をはじめ水彩画・版画・パステル画などを制作し評論 も行う。第10回二科展(1923)に絵画《漁夫の娘》で初 入選。その後も第12~16回展(1925~1929)に出品。 1929~1932年渡仏。帰国した1932年には第19回二科展 に滞欧作品 21 点を特別出陳。この年、二科会会員に推挙。 以後、第29回展まで毎年出品。そのほか、中央美術展の 第2~10回展(1921~1929)や第1回聖戦美術展(1939)、 紀元 2600 年奉祝美術展 (1940) などにも出品している。 中央美術展覧会会友。版画制作については渡仏前に自刻 木版を制作。父親の中央美術社から発行された美術雑誌 『中央美術』(1915~1929) の第9巻2・4号(1923.1・4)、 第11巻10・11・12号(1925.10・11・12)の表紙を木版画で 飾っている。エッチングについては帰国後、日本エッチ ング研究所の西田武雄から研究所製プレス機を購入、当 時まだプレス機の数少ない所有者の一人として、制作を はじめる。西田主宰の研究所機関誌『エッチング』第1 号 (1932.11) に銅版画 《カルタ》を発表し、第2号 (1932.12) に「私はかねがねエッチングに興味をもち、何時か機会 のある時、手をつけてみたいと思っていたが、(中略) 巴 里ではエッチングをやる機会を得られなかった」と「興 味のあった経験」と題した小文を寄稿。画家の中川紀元 はその人物像について「資性〔ママ〕温厚よく人と和し、 加ふるに眉目秀麗、挙止端正にして正に貴公子の風があ る」とし、現代美術のセンスを持つ新時代の画家であり、 文学・音楽等すべての事柄に興味と理解を示す紳士であ ると記している(『中央美術』14-2 1928.2)。若い頃に は幾度も大手術を受けたが最近では丈夫になったとも書 かれているが、享年46歳で、1943(昭和18)年8月14 日逝去。同年の第30回二科展に遺作《絵を描く女》が展 示された。著書に『西洋名画家選集』第5巻モヂルアニ 画集 (アトリエ社 1932) の評伝がある。 【文献】 「二科 会の新会友と受賞者」『中央美術』14-10(1928.10)/『日

本美術年鑑』昭和 19-21 年版(美術研究所 1949)/ 『20世紀物故洋画家事典』(美術年鑑社 1997)/『エッチング』 1·2·11 (加治)

## 田口良三(たぐち・りょうぞう)

愛知県半田町の教師仲間による版画団体・版刀会が発行した版画誌『運』第5号 [1931] に芙蓉を描いた木版画(題名不詳)を発表。現在『運』は5~7・10号 (1931~1935)のみを確認。【文献】『創作版画誌の系譜』 (加治)

## 宅間信基(たくま・のぶもと)

1931年に青森中学校を卒業。当時中学生の根市良三・ 柿崎卓二・佐藤米次郎によって発行された青森での最初 の版画誌『緑樹夢』(1930~1931)の第2号[1930.9]に特 別寄稿として《光を得る男》《母の愛》を発表。『緑樹夢』 は第3号(1931)まで刊行されたが、創刊号は未確認。【文 献】『緑の樹の下の夢―青森県創作版画家たちの青春展』 (青森県立郷土館 2002)/『創作版画誌の系譜』(加治)

## **詑摩晴男**(たくま・はるお)

1922 (大正 11) 年の神戸弦月画会主催の創作版画展 (2.23~26 神戸・三宮三○九番館) に木版画《静物》《顔》《二本の木》を出品。また、翌 1923 年の第 5 回日本創作版画協会展に木版画《川(宇治にて)》《静物》《街道筋》が入選した。出品時は神戸に住む。【文献】『神戸弦月画会主催創作版画展目録』(1922) / 『第五回日本創作版画協会展覧会目録』(1923) (三木)



高田博厚「中原中也像」 1958年 高17 巾15×16 ブロンズ刻名 箱無 少汚れ 300,000

# 有限会社 版画堂

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-12 雅樂川ビル 1F TEL 03(3219)2027 / FAX 03(3219)2026